本村北遺跡G地点
発掘調査報告書

２０１２．３

埼玉県入間郡三芳町教育委員会

はじめに

三芳町は、雑木林が随所に広がり、武蔵野の面影を偲ばせる緑豊かな町であるとともに、県指定有形民俗文化財「竹間沢車人形」・「竹間沢里神楽」や県指定旧跡「三富開拓地割遺跡」をはじめとする多くの文化財を伝え残す町でもあります。

一方で、畑作中心の純農村地帯であった三芳町は、首都圏30km圏内に位置することから、住宅開発や工場・倉庫等の進出により、その姿は急速に変貌を遂げつつあります。

このような状況の中で、先人たちが残してくれた貴重な財産である文化財を大切に保護し、後世に伝え残していくべきものとの観点に立ち、三芳町では文化財の保護を教育行政重点施策に掲げ、実践しております。

三芳町には、現在32カ所の遺跡が存在し、多くの遺跡で発掘調査が実施され、先人たちの生活が明らかにされつつあります。本書に掲載いたしました本村北遺跡G地点の発掘調査では、これまで当遺跡では発見されていなかった弥生時代後期の住居跡が見つかり、周辺の遺跡も含めた同時代の遺跡の広がりを考える上で、大変貴重な事例となりました。こうした新たな発見の積み重ねが、三芳町の歴史を少しずつ解明していく基礎資料になってまいります。

本書が、多くの方々の埋蔵文化財に対する理解と関心を深めるとともに、郷土の歴史・文化遺産を伝え残し、三芳町がより一層の発展を遂げていくための一助となることを願ってやみません。

三芳町教育委員会
教育長　桑原孝昭

例　言

1．本書は、埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢北側に所在する本村北遺跡(県遺跡番号 32-003)における、埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、開発者　　から三芳町教育委員会が委託を受け実施し、整理作業及び報告書刊行は三芳町教育委員会が行った。

3．調査組織は下記のとおりである。

調査主体者	三芳町教育委員会	教育長	桑原孝昭
調査事務局	社会教育課	課　長	鈴木義雄
調査担当係	文化財保護係	係　長	柳井章宏
	同	主　任	中村　愛
	同	主　任	越前谷理
調査担当者	文化財保護係	係　長	柳井章宏
	同	主　任	越前谷理

4．発掘調査は平成 23 年 5 月 16 日～6 月 30 日に行い、整理作業及び報告書刊行は同年 10 月 3 日～平成 24 年 3 月 16 日に行った。

5．出土遺物及び遺構図面類は、三芳町教育委員会が保管する。

6．遺構写真撮影は柳井及び越前谷が行い、本書の執筆・編集は越前谷が行った。報告書に掲載する土層断面図及び一部の遺構図のデジタルトレースについては(株)東京航業研究所に業務委託を行い、遺物実測図作成及び写真撮影については(有)アルケーリサーチに業務委託を行った。

7．本書に掲載した図版等の読み方は、それぞれの図で示した。

8．本書に掲載した地図は、国土地理院発行 1/25,000 地形図「志木」、三芳町発行 1/2,500 三芳町全図である。

9．発掘現場における遺構・遺物の記録及び整理作業における図版作成は、人力及び(株)CUBIC 社製「遺構くん Cubic」を併用した。

10．本書の作成及び編集には、主に Adobe 社製 IllustratorCS5、PhotoshopCS5、Acrobat9 Pro を使用した。

11．発掘調査及び出土資料の整理・報告にあたり、下記の諸氏・関係機関のご指導・ご教示を賜った。記して感謝の意を表したい。(順不同・敬称略)

石塚宏明、大久保淳、尾形則敏、加藤秀之、隈本健介、越村篤、渋谷寛子、鈴木一郎、高崎直成、坪田幹男、徳留彰紀、中岡貴裕、永井智教、鍋島直久、根本靖、早坂廣人、藤波啓容、堀善之、松本富雄、柳澤健司、山田尚友、和田晋治

あらかわ考古学会、(有)アルケーリサーチ、(株)CUBIC、(株)東京航業研究所

12．発掘調査ならびに整理作業従事者は下記のとおりである。(順不同、敬称略)

大下潤子、荻原雅夫、菊池奈保美、黒岩裕二、佐藤洋子、武政潤一、田中夫味子、田村早苗、仲井キヨ子、永見武男、野上吉樹、平田小百合、堀田敦子、松本アキヨ、黛佳代子、望月正一、吉田悦子、渡邊愛

凡　例

1．本書で使用した図面の方位はすべて座標北であり、遺構挿図は特記がない限り、ページ上が北である。
2．測量は世界測地系に基づいている。
3．遺構図及び実測図の縮尺はスケールで示したが、主なものは以下のとおりである。
　遺構は、遺構配置図＝1/300、竪穴住居跡＝1/60、竪穴住居跡炉跡＝1/30、土坑・井戸跡・溝跡＝1/100
　遺物は、土器片・砥石・鉄釘＝1/4、打製石斧＝1/2、その他石器＝1/1
4．遺構図のスクリーントーンは以下のとおりであるが、その他のものはその都度示す。
　■……焼土　■……粘土堆積　■……カクラン
5．土層断面図における水平数値は海抜高度（m）を示す。
6．土層断面の土色名及び土器類の色調名は、『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所　色票監修）によった。

目　次

はじめに
例言
凡例・目次・挿図目次・写真図版目次
第Ⅰ章　調査の概要
　第1節　調査に至る経緯……1
　第2節　調査の方法……1
　第3節　調査の経過……1
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境
　第1節　地理的環境……3
　第2節　遺跡の概要……3
　第3節　周辺の遺跡……3
第Ⅲ章　遺構と遺物
　第1節　概要……5
　第2節　各遺構と遺物……5
　第3節　遺構外出土の遺物……19
第Ⅳ章　まとめ……23

挿図目次

第1図　調査位置図（1/3,000）……1
第2図　遺構配置図（1/300）……2
第3図　周辺の遺跡（1/20,000）……4
第4図　1号住居跡遺構図……6
第5図　1号住居跡出土遺物……7
第6図　2号住居跡遺構図……8
第7図　2号住居跡出土遺物……9
第8図　土坑・井戸・溝跡遺構図（1）……10
第9図　土坑・井戸・溝跡遺構図（2）……11
第10図　土坑出土遺物……11
第11図　土坑・井戸・溝跡遺構図（3）……12
第12図　土坑・井戸・溝跡遺構図（4）……13
第13図　土坑・井戸・溝跡遺構図（5）……14
第14図　溝跡出土遺物……20
第15図　遺構外出土遺物……22

写真図版目次

写真図版1
　調査前風景
　掘削状況
　1号住居跡検出状況
　1号住居跡調査風景
　1号住居跡遺物出土状況
　砥石出土状況
　炉跡・粘土堆積検出状況
　1号住居跡完掘状況
写真図版2
　2号住居跡検出状況
　2号住居跡調査状況
　2号住居跡炉跡セクション
　炉跡完掘状況
　2号住居跡貼床検出状況
　2号住居跡完掘状況
　1号土坑調査風景
　1号土坑完掘状況
写真図版3
　2号土坑完掘状況
　3号土坑完掘状況
　4号土坑完掘状況
　5号土坑完掘状況
　6号土坑完掘状況
　7号土坑完掘状況
　1号井戸跡礫出土状況
　1号井戸跡完掘状況
写真図版4
　G地点完掘状況
　溝跡完掘状況
　2号溝跡・10号溝跡調査風景
　9号溝跡完掘状況
　10号溝跡断面形状
　調査区近景

第Ⅰ章　調査の概要

第1節　調査に至る経緯

本村北遺跡は、武蔵野台地北東部に位置し、東側を流れる柳瀬川によって形成された開析谷を臨む台地上に約50,000㎡の範囲に広がる。これまでに実施された試掘調査・発掘調査等により、縄文時代・古墳時代・奈良平安時代の複合遺跡として捉えられている。

本村北遺跡G地点は、埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢字北側793-1,-3,-4・823-1,-2,-3に位置する(第1図)。調査の発端は、平成23年4月8日に　　より三芳町教育委員会へ、当該地の埋蔵文化財包蔵地試掘調査依頼書が提出されたことによる。三芳町教育委員会では、依頼に基づいて平成23年4月13日～5月10日に試掘調査を実施したところ、当該地において住居跡2軒(弥生時代及び奈良時代)・溝跡4条を確認したため、遺跡の保存について開発者と協議を行った。その結果、開発は避けられないとの結論に達し、当該地内約1,300㎡について記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

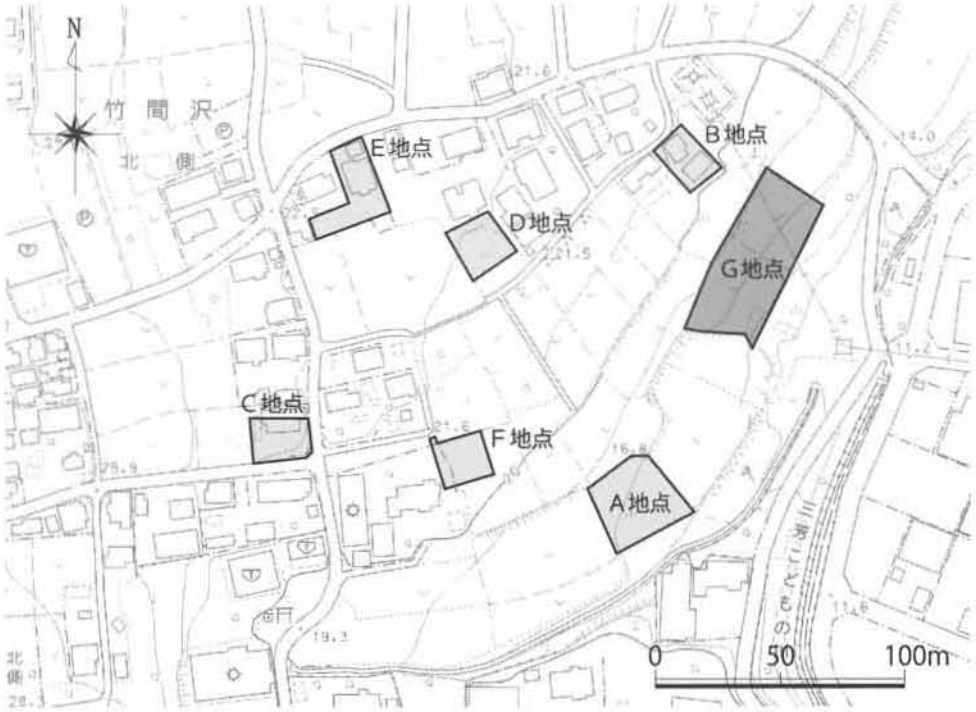
これにより、平成23年5月13日に　　と発掘調査委託契約を締結、文化財保護法に基づき同年5月16日付三芳教社発94号で埋蔵文化財発掘調査通知を埼玉県教育委員会へ提出し、同年5月16日～6月30日に発掘調査、その後同年10月3日～平成24年3月16日にかけて整理作業及び報告書作成を行った。

第2節　調査の方法

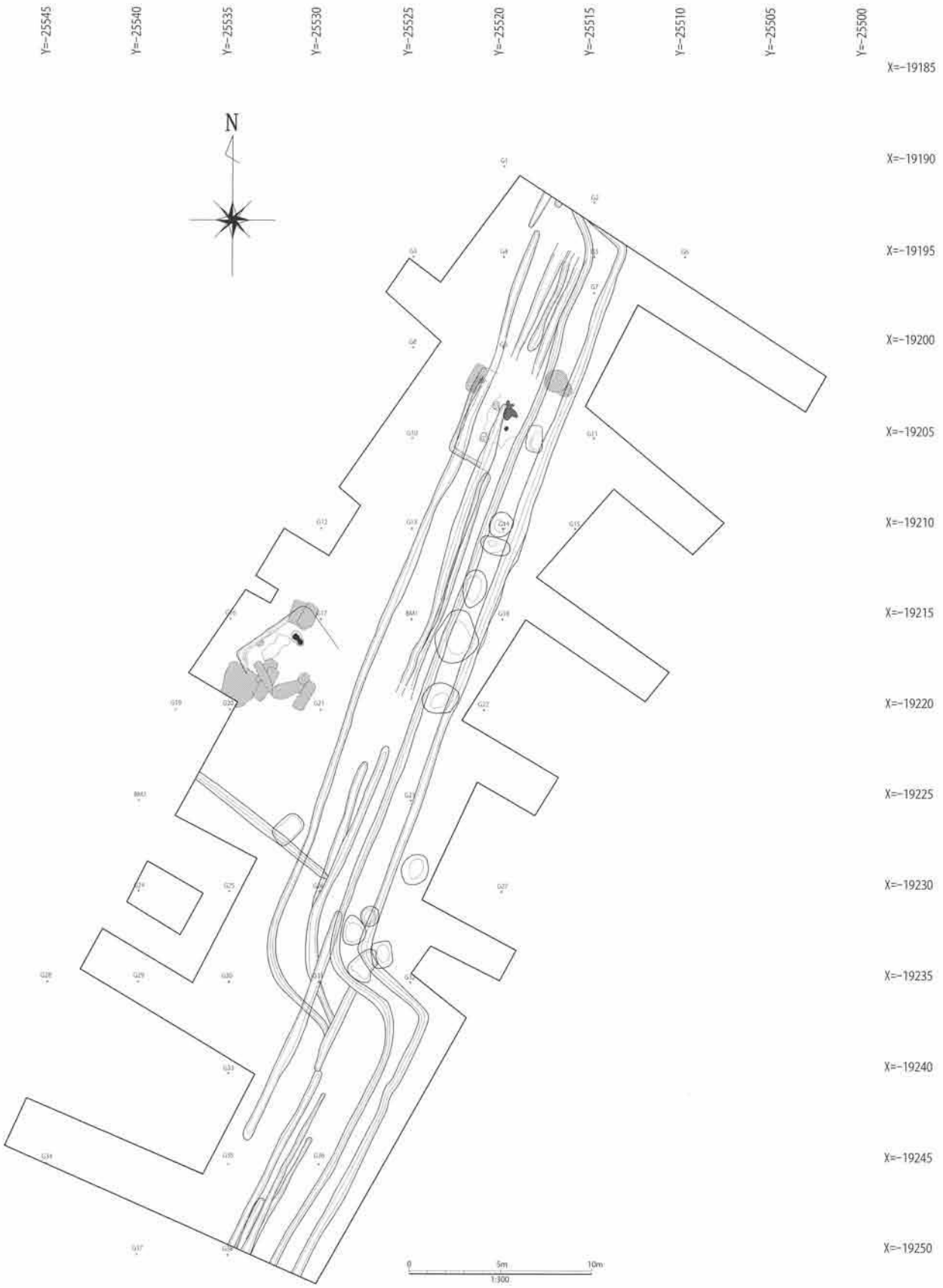
調査は試掘調査により遺構が確認された範囲に調査区を設定し、表土層を人力により除去した後、掘り下げを行った。遺構については、土層観察用のベルトを残しながら掘り下げを行い、1/10・1/20の縮尺で土層断面の実測、トータルステーション及び人力による平面実測を行った。遺物は、遺構に伴うものについてはトータルステーションを使用し、出土位置を記録した。

第3節　調査の経過

発掘調査は平成23年5月16日から開始し、同年6月30日に終了した。調査区が斜面地に位置するということもあり、掘り下げ作業及び土層堆積状況の把握は困難を極めた。調査の結果、弥生時代の住居跡1軒・奈良時代の住居跡1軒・近世から近代と推定される土坑12基・井戸跡1基・溝跡18条を検出した(第2図)。



第1図　調査位置図(1/3,000)



第 2 図　遺構配置図(1/300)

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

三芳町は、埼玉県の南西部に位置し、東に志木市・富士見市、南東に新座市、南西に所沢市、北にふじみ野市・川越市と接する。面積は15.3k㎡、人口は約38,000人である。地形的には、多摩川の開析扇状地といわれる武蔵野台地上の北東部縁辺に位置する。

武蔵野台地は、関東平野の南西部に位置し、東西約40km・南北約30kmに及ぶ大規模な台地として知られる。武蔵野台地の北西部は加治丘陵(阿須山丘陵)と入間川が境となり、北東部は荒川の沖積低地(荒川低地)で終わる。南西部は多摩川の沖積低地が境となり、南東部は東京湾岸のいわゆる下町低地である。武蔵野台地は奥多摩の山地より流れ出る多摩川の開析扇状地であるといわれ、その扇頂にあたる青梅付近で標高約180 mである。立川で約85 m、所沢で約60 m、三芳付近で約40 mと東に向かうに従って次第に低下し、武蔵野台地の東端部では標高約20 mとなり荒川低地へ至る。

三芳町はこの武蔵野台地の北東部縁辺に位置している。町の西部域は標高約45 mでほとんど平坦な地形を呈するが、近年の調査によりこの地域には数条の埋没谷が存在し、その周辺で遺跡の存在が明らかになりつつある。また、標高30 mの等高線を境とする東部域には、東方の荒川低地に向かう河川が複数存在しており、遺跡の多くはこうした河川流域に分布している。さらに、柳瀬川の沖積地を臨む台地縁辺には、崖下の湧水を利用した生活を基盤とする遺跡が連綿と残されている。

第２節　遺跡の概要

本村北遺跡は武蔵野台地が開析する柳瀬川の左岸台地縁辺に位置する。遺跡の南側を流れる通称「盆川(ボンガワ)」と呼ばれる小河川により形成された谷と、遺跡の北側に位置する富士見市境に入り込む谷に画された、小さな舌状台地の南斜面に存在する。これまでに６次の発掘調査が実施され、縄文時代前期(関山式期)の住居跡１軒と土坑１基、中期の集石１基、早期・前期・後期の土器片を含む包含層、古墳時代後期(鬼高期)の住居跡１軒、奈良時代の住居跡３軒、平安時代の住居跡３軒と土器焼成遺構１基、時期不明の井戸２基と土坑・ピットを多数検出している。

第３節　周辺の遺跡

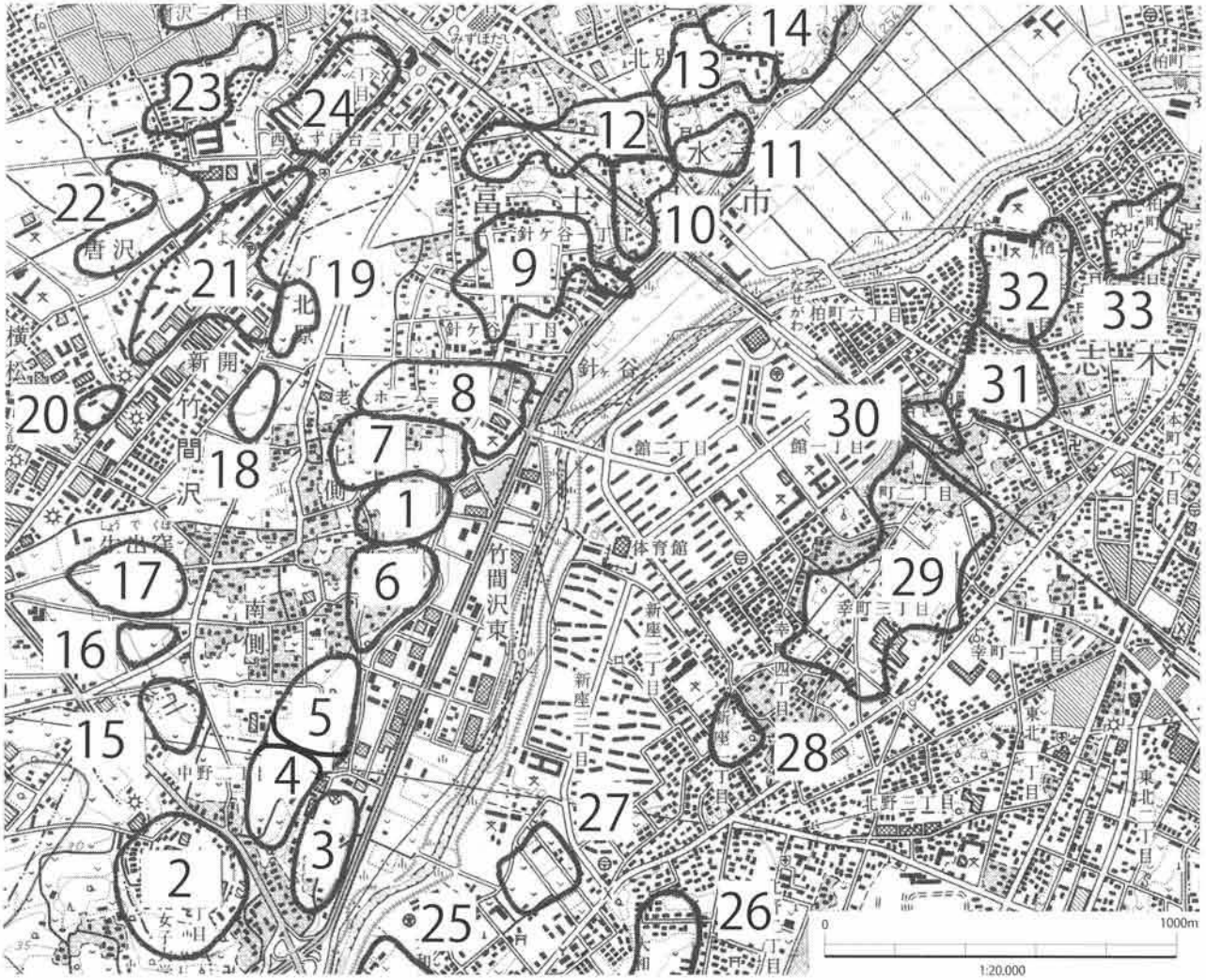
三芳町には、現在32ヵ所の遺跡が知られている。このうち１ヵ所は埼玉県指定旧跡「三富開拓地割遺跡」であり、江戸時代中期の武蔵野における新田開発の村落形態を今なおとどめている。残りのすべては、原始・古代を中心とした埋蔵文化財を包蔵する遺跡であり、地理的条件により町東部域に遺跡の集中が見られる。

特に、柳瀬川を臨む台地上には、三芳町域に限らず遺跡が連続して見られる。これは、比較的広い沖積地の発達や台地縁辺からの湧水により小さな谷戸が数多く存在することが、水稲耕作の生産基盤として適していたためと考えられる。柳瀬川に面した遺跡のうち、左岸に位置する三芳町域には、上流から古井戸山遺跡(5)、本村南遺跡(6)、本村北遺跡(1)、北側遺跡(7)が存在している。古井戸山遺跡からは、旧石器時代の石器集中や礫群、縄文時代前期の住居跡、弥生時代前期の住居跡が検出されている。さらに、縄文時代早期～後期、弥生時代中期～後期、奈良・平安時代、中世の遺物が認められ、旧石器時代～弥生時代を中心としながらも連綿と続く複合遺跡である。隣接する本村南遺跡は、かつて弥生時代中期末葉(宮ノ台式)の土器が出土したことで知られる遺跡である。これまでの発掘調査により、弥生時代中期～後期の住居跡や弥生時代後期の方形周溝墓・Ｖ字状の大溝が検出され、弥生時代中期末葉～後期末葉を中心とする遺跡として位置付けられる。本村北遺跡については、上述したとおりである。北に隣接する北側遺跡は、現在のところ原始・古代に遡る遺構の検出はないが、縄文時代中期・弥生時代後期の土器片、土師器片・須恵器片の出土が知られ、縄文時代から平安時代を中心とする遺跡と推定される。

下流の富士見市南通遺跡(8)は、区画整理事業に伴い発掘調査が行われ、弥生時代中期後半～古墳時代前期初頭の住居跡や環壕が発見され、当該期の大規模な集落の存在を伺わせる。また、北通遺跡(9)からは、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡や方形周溝墓が発見され、方形周溝墓の主体部からは、鉄剣やガラス玉が出土している。栗谷ツ遺跡(12)では、旧石器時代～古墳時代初頭・平安時代の各遺構・遺物が発見され、中でも平安時代の須恵器窯跡1基が特筆される。東台遺跡(13)は、旧石器時代・縄文時代前期・弥生時代後期・平安時代の各時代の遺構・遺物が発見され、平安時代の集落としては、近隣でも有数の規模を誇る。

柳瀬川の右岸には、志木市西原大塚遺跡(29)・城山遺跡(32)など、大規模な集落遺跡が存在する。西原大塚遺跡は、縄文時代中期及び弥生時代後期～古墳時代前期を中心とし、奈良・平安時代も含めた複合遺跡として捉えられている。特に、弥生時代後期後半～古墳時代前期前半の住居跡が500軒以上発見されており、地域の代表的な集落跡といえる。城山遺跡では、旧石器時代～近世まで各時代の遺構・遺物が発見されているが、中でも古墳時代後期に属する住居跡が130軒以上も調査されている。

また、柳瀬川流域を少し離れるが、唐沢堀の流域には新開遺跡(21)や新開第二遺跡(20)、江川流域には俣埜遺跡が位置し、平安時代の須恵器生産に伴う窯跡や土器焼成遺構・工房跡、製鉄遺構や炭窯などの遺構や遺物が発見されている。



1. 本村北遺跡　2. 西上遺跡　3. 新座市No.42遺跡　4. 新座市No.3遺跡　5. 古井戸山遺跡　6. 本村南遺跡　7. 北側遺跡　8. 南通遺跡　9. 北通遺跡　10. 別所遺跡　11. 正網南遺跡　12. 栗谷ツ遺跡　13. 正網遺跡　14. 東台遺跡　15. 生出窪南遺跡　16. 生出窪遺跡　17. 生出窪北遺跡　18. 北原遺跡　19. 北原第二遺跡　20. 新開第二遺跡　21. 新開遺跡　22. 三芳唐沢遺跡　23. 関沢遺跡　24. 松ノ木遺跡　25. 新座市NO.44遺跡　26. 新開遺跡　27. 新座市NO.46遺跡　28. 新座市No.38遺跡　29. 西原大塚遺跡　30. 新邸遺跡　31. 中道遺跡　32. 城山遺跡　33. 中野遺跡

第3図　周辺の遺跡(1/20,000)

第Ⅲ章　遺構と遺物

第１節　概要

Ｇ地点の発掘調査では、調査区が斜面地に位置するため残存状態が悪い遺構が多く、遺物も確実に遺構に伴うものが少なかった。遺構は、弥生時代の住居跡１軒・奈良時代の住居跡１軒・近世から近代と推定される土坑 12 基・井戸跡１基・溝跡 18 条を検出した。遺物の総点数は 3,420 点で、その内容は、縄文土器片 216 点・弥生土器片 244 点・土師器片 306 点・須恵器片 245 点・陶磁器片 99 点・平瓦片 45 点・鉄製品 17 点ほかである。

第２節　各遺構と遺物

１号住居跡（第４図）

本遺構は調査区の北半に位置する。遺構の北壁はカクランにより、北東側約 1/2 は２号溝跡の埋没過程で壊されており、残存状態はあまりよくない。残存する遺構の規模は東西 3.0 ｍ×南北 4.5 ｍを測り、主軸方向はＮ－ 20°－Ｅである。

確認面は黒褐色土層中で、掘り込みは最深部で 40cm。壁と床面との境には上端幅 20 ～ 30cm 深さ 10cm の壁溝がめぐる。床面は貼床の痕跡が確認できなかったが、硬化した範囲が認められた。柱穴は２カ所（ピット１・ピット２）確認され、ピット１は 35cm × 45cm のほぼ円形で深さ 75cm、ピット２は 45cm × 52cm の楕円形で深さ 65cm、いずれの柱穴にも最下層には上面が硬化した粘土質の土が約 10cm の厚さで堆積していた。

カマドは残存していなかったが、床面上の一部に粘土の堆積と炉跡が残されていた。堆積した粘土は焼土粒子・炭化物粒子を含み、1.5 × 2 ｍの範囲に約 4cm の厚さで広がっており、上面は硬化していた。炉跡は、90cm × 95cm の範囲に広がり、約 1.0 ～ 2.5cm の厚さで焼土が堆積していた。焼土自体は堅くしまるが、火床面の焼けしまりは見られなかった。

重複関係は、１号溝跡に覆土を切られ、３号溝跡には粘土堆積層まで切られ、２号溝跡の埋没過程で北東側約 1/2 を切られる。

出土遺物は、南西壁にもたれかかるように砥石（第５図３・写真図版１）が出土し、覆土中から縄文土器片・土師器片・須恵器片・粘土塊・石器など総点数 459 点が出土した。形を復元できる遺物がなく、また、床面直上からの遺物の出土が少なかったため推測の域を出ないが、おおよそ８世紀後半に位置付けられる。

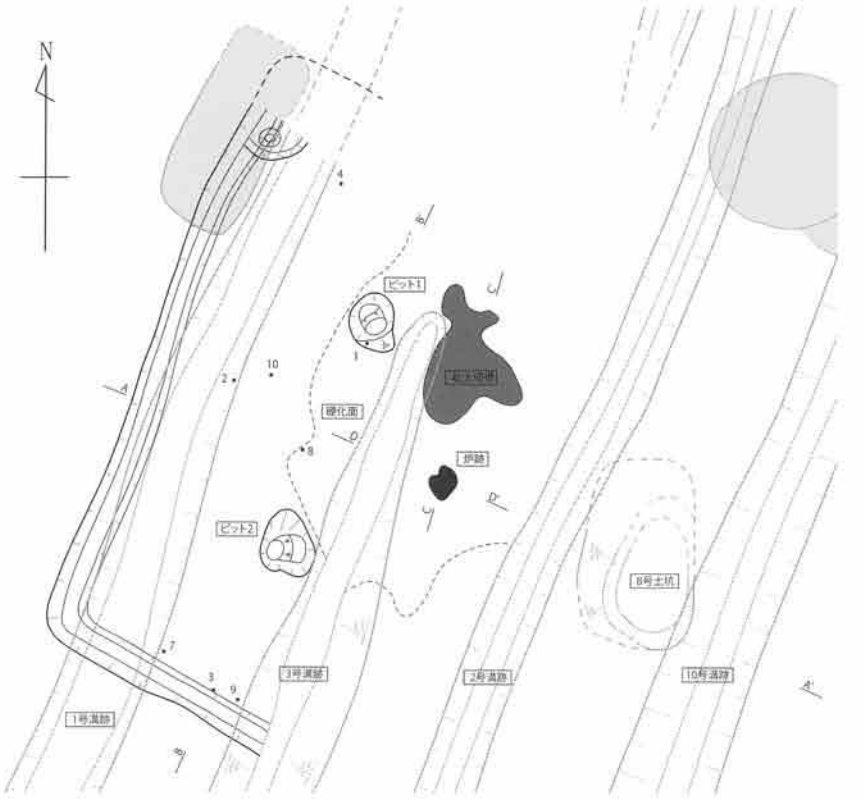
１号住居跡出土遺物（第５図）

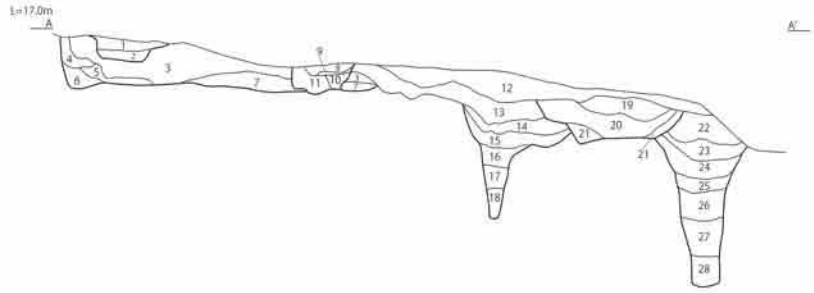
1. 須恵器埦。底部のみ残存。底部復元径 10.0cm（内底径 9.0cm）。残存高 2.0cm。平底の底部からやや丸みをもって立ち上がる。底部は左回転糸切り後、周辺回転ヘラケズリを施す。内底面は使用に伴う磨痕が顕著。胎土には粗砂・細砂・多量の白色針状物を含む。色調は灰赤色 2.5YR4/2。焼成良好。南比企窯跡群産。８世紀後半。

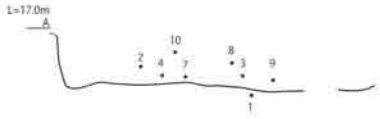
2. 土師器甕。底部～立ち上がりのみ残存。残存高 4.2cm。調整は、底部ヘラケズリ・外面斜め方向のヘラケズリ・内面ヘラナデ。平底の底部からほぼ直線的に立ち上がる。胎土には粗砂・雲母粒子を多量に含む。焼成良好。底部及び外面の一部に黒斑を有する。色調は暗赤褐色 5YR3/2。

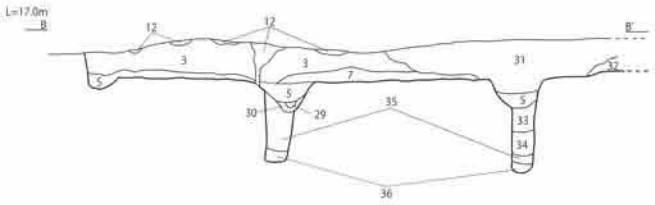
3. 砥石。一方の端部を欠損する。残存長 13.6cm・幅 3.9cm・厚さ 0.7 ～ 3.7cm・重量 277.66 ｇ。破損面を除き全ての面に使用痕が残り、おもて面は顕著にツルツルしている。裏面には、使用に伴う線条痕が残る。凝灰岩製。

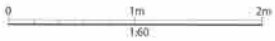
4. 土師器甕。底部～立ち上がりのみ残存。残存高 3.8cm。調整は、底部ヘラケズリ・外面斜め方向のヘラケズリ・内面ナデ。胎土には粗砂・雲母粒子を含む。色調は赤褐色 2.5YR4/6。風化のため外面が剥落するが、焼成良好。

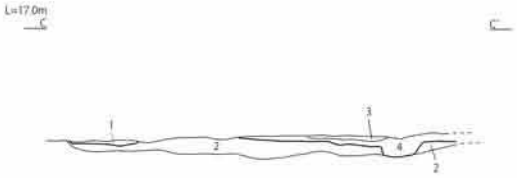


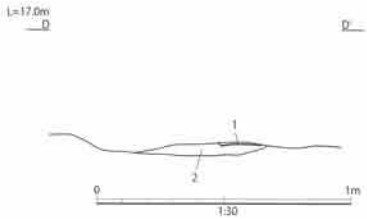












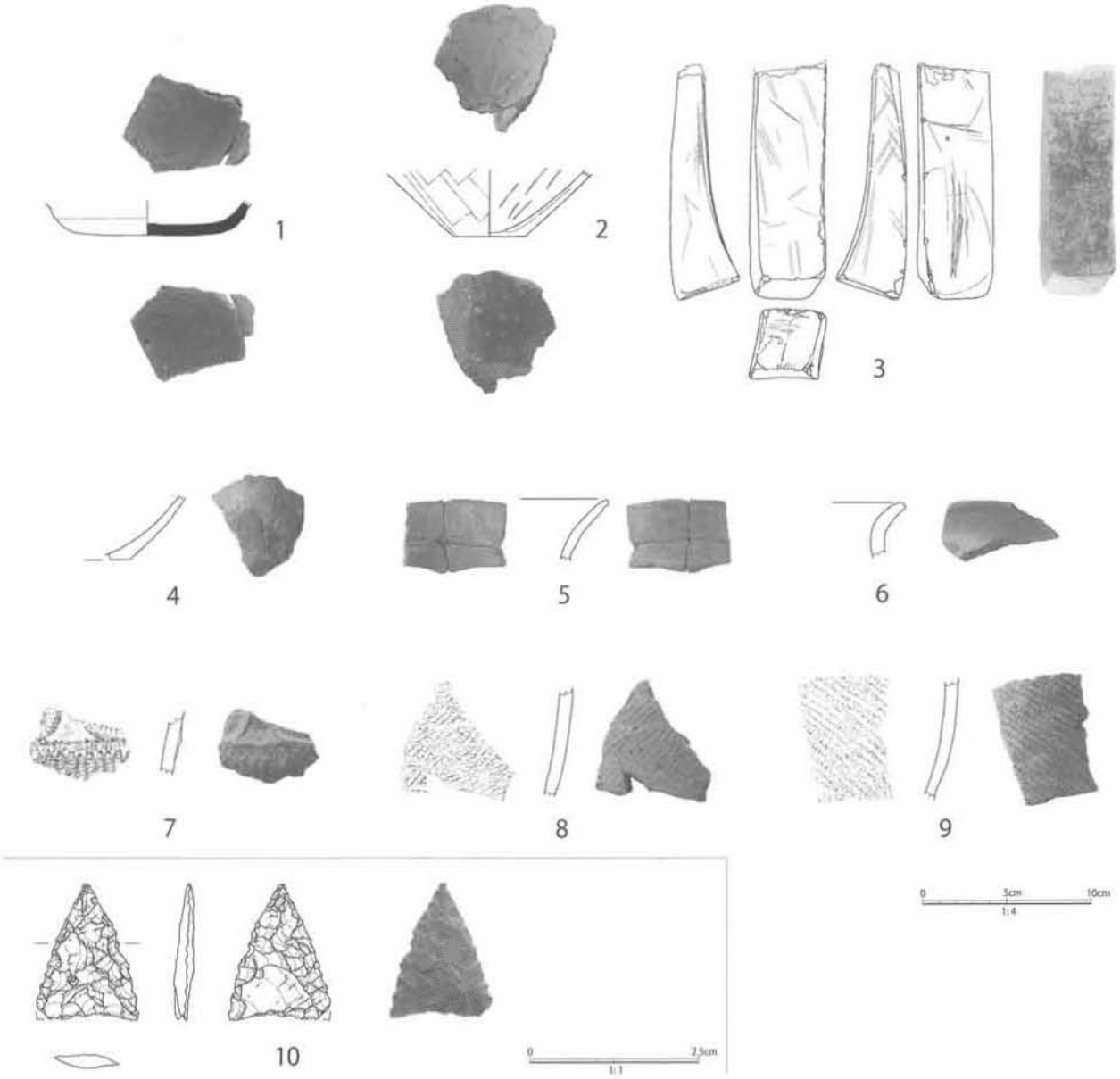
A-A'・B-B' 共通

1. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘性無。しまり有。砂質土。1～2mm大のローム粒子・褐色土(7.5YR4/3)ブロック多量に含む。
2. 褐灰色土(7.5YR4/1) 粘性やや有。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子・褐色土(7.5YR4/3)ブロック少量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性無。しまり有。1～2mm大のローム粒子・焼土粒子少量に含む。
4. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性有。しまり弱。黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック多量に、1～2mm大のローム粒子微量に含む。
5. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性やや有。しまり弱。黒褐色土(7.5YR3/2)ブロック少量に含む。
6. 黒色土(7.5YR2/1) 粘性有。しまり弱。黒褐色土(7.5YR3/2)ブロック多量に含む。
7. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性やや有。しまり弱。黒褐色土(7.5YR3/2)ブロック非常に多量に含む。
8. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性無。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子多量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
9. 明黄褐色土(10YR6/8) 1～2mm大の砂質土(火山灰か)粒子の縞層。
10. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘性無。しまり弱。砂質土。明黄褐色土(10YR6/8)粒子・2～3mm大のローム粒子少量含む。
11. 褐灰色土(7.5YR4/1) 粘性無。しまり弱。砂質土。黒褐色土(7.5YR3/2)ブロック非常に多量に、1～2mm大のローム粒子・炭化物粒子微量に含む。
12. 黒褐色土(7.5YR2/2) 粘性やや有。しまり有。2～3mm大の焼土粒子多量に、黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック少量に、炭化物粒子微量に含む。
13. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性やや有。しまり弱。2～3mm大の焼土粒子多量に含む。
14. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘性無。しまり弱。1～3mm大の焼土粒子少量に含む。
15. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性無。しまり弱。1～2mm大の焼土粒子微量に含む。
16. 褐灰色土(7.5YR4/1) 粘性やや有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に、5mm大のローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
17. 褐灰色土(7.5YR4/1) 粘性無。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に、黒色土(7.5YR2/1)ブロック少量含む。
18. 黒色土(7.5YR2/1) 粘性有。しまり無。明黄褐色土(10YR6/8)ブロック多量に含む。
19. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性無。しまり弱。1～2mm大の白色粒子少量に、焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
20. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性無。しまり有。砂質土。1～2mm大の焼土粒子・白色粒子少量に、10mm大の白色ブロック微量に含む。
21. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性無。しまり有。砂質土。1～2mm大の焼土粒子・白色粒子多量に含む。
22. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性有。しまり有。1～2mm大の焼土粒子・白色粒子多量に、炭化物粒子微量に含む。
23. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大の焼土粒子・白色粒子少量含む。
24. 黒褐色土(7.5YR2/2) 粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大のローム粒子多量に、10mm大のロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
25. 黒褐色土(7.5YR2/2) 粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大のローム粒子・灰褐色土(7.5YR4/2)ブロック多量に含む。
26. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性やや有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子・20～30mm大のロームブロック多量に、炭化物粒子少量含む。
27. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性無。しまり弱。10mm大のロームブロック微量に含む。
28. 黒色土(7.5YR2/1) 粘性無。しまり無。ロームブロックを非常に多量に含む。
29. 黒色土(7.5YR2/1) 粘性無。しまり弱。白色粒子微量に含む。
30. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性やや有。しまり弱。白色粒子微量に含む。
31. 黒褐色土(7.5YR2/2) 粘性無。しまり有。2～3mm大のローム粒子・焼土粒子多量に含む。
32. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性やや有。しまり弱。1～2mm大のローム粒子多量に含む。
33. 黒褐色土(7.5YR2/2) 粘性やや有。しまり弱。白色粒子多量に含む。
34. 黒色土(7.5YR2/1) 粘性やや有。しまり弱。白色粒子少量に含む。
35. ※掘り飛ばしたため、土層観察できず。
36. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性有。しまり強。粘土質。1～2mm大のローム粒子多量に、白色ブロック微量に含む。

C-C'・D-D' 共通

1. 暗赤褐色土(10YR3/2) 焼土(明赤褐色土 2.5YR5/8)を帯状に含む。火を受けて堅くしまる。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性やや有。しまり強。2～3mm大の焼土粒子・灰白色粘土粒子・炭化物粒子多量に含む。
3. 黒色土(7.5YR2/1) 粘性やや有。しまり強。2～3mm大の焼土粒子・灰白色粘土粒子・炭化物粒子多量に含む。層上面が硬化。
4. 灰白色粘土(7.5YR8/2) 粘性有。堅くしまる。炭化物粒子・焼土ブロック・黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック多量に含む。層上面が硬化。

第 4 図　1号住居跡遺構図



第 5 図　1 号住居跡出土遺物

5. 土師器甕。口縁部片。残存高 3.6cm。外反しながら開く。内外面とも横方向のナデ。胎土には細砂・雲母粒子を含む。色調は橙色 5YR6/6。焼成良好。

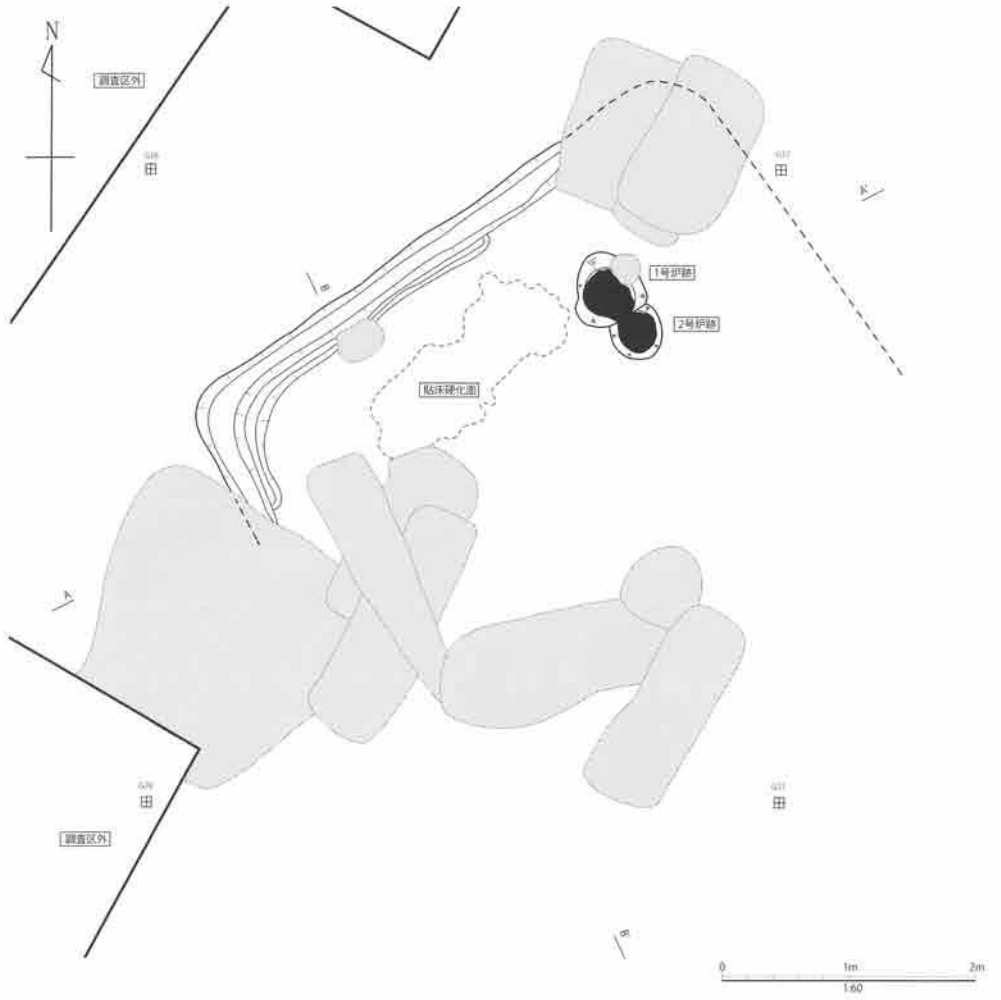
6. 土師器甕。口縁部片。残存高 3.5cm。大きく外反して開く。内外面とも横方向のナデ。胎土には細砂・雲母粒子を含む。色調はにぶい黄橙色 10YR6/3。焼成良好。

7. 縄文土器片。隆線から垂下するように有節線文が施される。内面にはナデを施す。胎土には粗砂・雲母粒子を多量に含む。色調はにぶい黄褐色 10YR5/3。焼成良好。阿玉台Ⅰb式期か。

8. 縄文土器片。地文には RL を施文する。内面には横方向のミガキを施す。胎土には小石・粗砂・白色粒子を含む。色調はにぶい黄褐色 10YR7/4。焼成良好。加曽利EⅣ式期か。

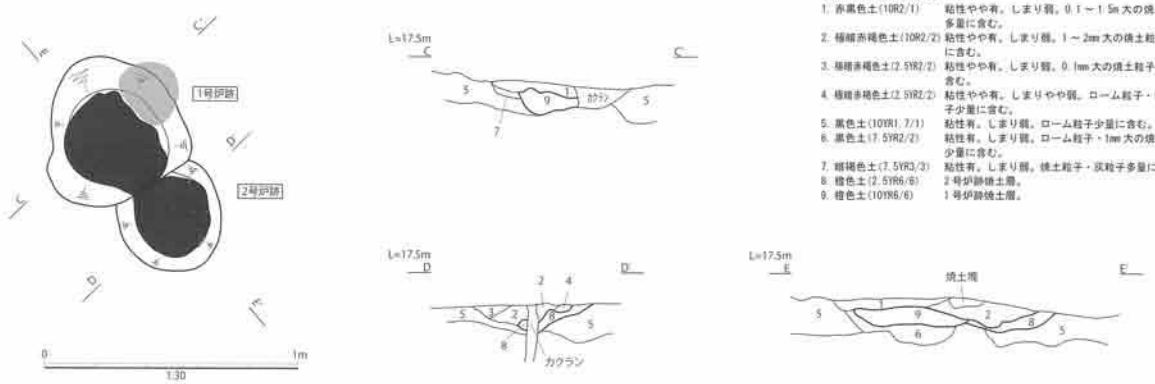
9. 縄文土器片。地文には LR を縦に施文する。内面にはミガキを施す。胎土には小石・粗砂・黒色粒子・白色粒子を含む。色調はにぶい黄橙色 10YR7/4。焼成良好。加曽利EⅣ式期か。

10. 石鏃。長さ 2.0cm・基部幅 1.5cm・重量 0.57 g。両面に細かい押圧剥離を施し、丁寧な調整を行う。黒色ガラス安山岩製。覆土上層より出土。



A-A'・B-B' 共通

1. 黒色土(7.5YR2/1) 粘性やや有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に、10～15mm大のロームブロック少量に含む。
2. 灰褐色土(7.5YR5/2) 粘性やや有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に、10mm大のロームブロック・褐灰色土(7.5YR4/1)ブロック少量に含む。
3. 褐灰色土(7.5YR4/1) 粘性やや有。しまり有。2～3mm大のローム粒子多量に含む。
4. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘性有。しまり有。2～3mm大のローム粒子・10～30mm大のロームブロック・20mm大の黒色土(7.5YR2/1)ブロック多量に含む。
5. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘性やや有。しまり有。1～2mm大のローム粒子・30mm大のロームブロック・10～20mm大の黒色土(7.5YR2/1)ブロック多量に含む。
6. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性やや有。しまり弱。1～2mm大のローム粒子・ロームブロック・灰褐色土(7.5YR4/2)ブロック少量に含む。
7. 黒色土(7.5YR2/1) 粘性やや有。しまり弱。1～2mm大のローム粒子多量に、10～20mm大のロームブロック少量に含む。
8. 黒褐色土(7.5YR5/6) 粘性やや有。しまり弱。黒色土(7.5YR2/1)ブロック多量に含む。
9. 褐色土(7.5YR4/4) 粘性強。しまり有。ローム主体の貼床硬化面。
10. 極暗褐色土(7.5YR2/3) 粘性強。しまり有。ロームブロック含む。
11. 黒色土(10YR1.7/1) 粘性有。しまり弱。ローム粒子少量に含む。
12. 極暗赤褐色土(10R2/2) 粘性やや有。しまり弱。1～2mm大の焼土粒子多量に含む。
13. 黒色土(7.5YR2/2) 粘性有。しまり弱。ローム粒子・1mm大の焼土粒子少量に含む。
14. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性無。しまり有。1～3mm大のローム粒子多量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
15. 灰褐色土(7.5YR5/2) 粘性無。しまり無。1～3mm大のローム粒子多量に含む。
16. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘性有。しまり有。2～3mm大のローム粒子・20mm大のロームブロック多量に含む。
17. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘性やや有。しまり有。2～3mm大のローム粒子・20～30mm大のロームブロック主体的に含む。
18. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性やや有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
19. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性ややあり。しまり無。2～3mm大のローム粒子多量に、3mm大の炭化物粒子少量に含む。
20. 褐灰色土(7.5YR4/1) 粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大のローム粒子少量含む。



C-C'・D-D'・E-E' 共通

1. 赤黒色土(10R2/1) 粘性やや有。しまり弱。0.1～1.5m大の焼土粒子多量に含む。
2. 極暗赤褐色土(10R2/2) 粘性やや有。しまり弱。1～2mm大の焼土粒子多量に含む。
3. 極暗赤褐色土(2.5YR2/2) 粘性やや有。しまり弱。0.1mm大の焼土粒子少量に含む。
4. 極暗赤褐色土(2.5YR2/2) 粘性やや有。しまりやや弱。ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
5. 黒色土(10YR1.7/1) 粘性有。しまり弱。ローム粒子少量に含む。
6. 黒色土(7.5YR2/2) 粘性有。しまり弱。ローム粒子・1mm大の焼土粒子少量に含む。
7. 暗褐色土(7.5YR3/3) 粘性有。しまり弱。焼土粒子・灰粒子多量に含む。
8. 橙色土(2.5YR6/6) 2号炉跡焼土層。
9. 橙色土(10YR6/6) 1号炉跡焼土層。

第 6 図　2号住居跡遺構図

2号住居跡(第6図)

本遺構は調査区の中央やや北西に位置する。遺構の北西コーナーと北壁・西壁の一部を残して、カクラン及び斜面の埋没過程で失われており、残存状態は悪い。残存する遺構の規模は東西3.5m×南北1.8mで、主軸方向はN－55°－Eである。

確認面はローム層上面で、掘り込みは最深部で約30cm。北西コーナーを中心に上端幅5～10cm深さ10cmの壁溝がめぐる。

床面は、ロームブロックを主体とする貼床が1.9m×0.8mの範囲に約10cmの厚さで残存し、全面的に堅くしまっていた。柱穴は検出されなかった。

炉跡は北西壁寄りに、2時期(1号炉跡・2号炉跡)重複して確認された。1号炉跡は57cm×58cmの規模で、火床面は確認面から5cm下がった位置にあり、焼けしまった状態であった。2号炉跡と重複し、北西端を切る。2号炉跡は36cm×40cmの規模で、火床面は確認面から7cm下がった位置にあり、焼けしまった状態であった。1号炉跡に先行し、北西端を切られる。

出土遺物は、覆土中から縄文土器片・弥生土器片・土師器片・須恵器片・石器など総点数107点が出土した。形を復元できる遺物がなく、また、床面直上からの遺物の出土が少なかったため推測の域をでないが、住居跡の形態等も考え合わせ、弥生時代後期に位置付けられる。

2号住居跡出土遺物(第7図)

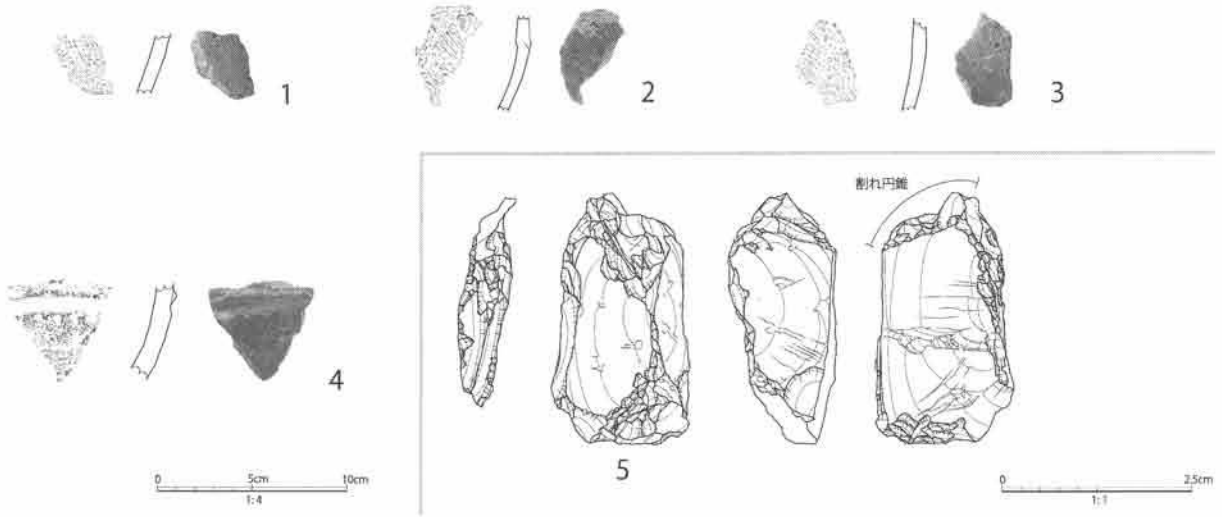
1. 弥生土器甕。胴部片。外面は斜め方向のハケを施す。内面はナデ整形後、粗いハケを施す。胎土には小石を含む。色調はにぶい黄橙色10YR7/4。焼成良好。弥生時代後期。

2. 弥生土器甕。胴部片。外面は横及び斜め方向のハケを施し、使用に伴うススが残る。内面はナデ整形後、粗いミガキを施す。胎土には小石を含む。色調はにぶい黄橙色10YR7/4。焼成良好。弥生時代後期。

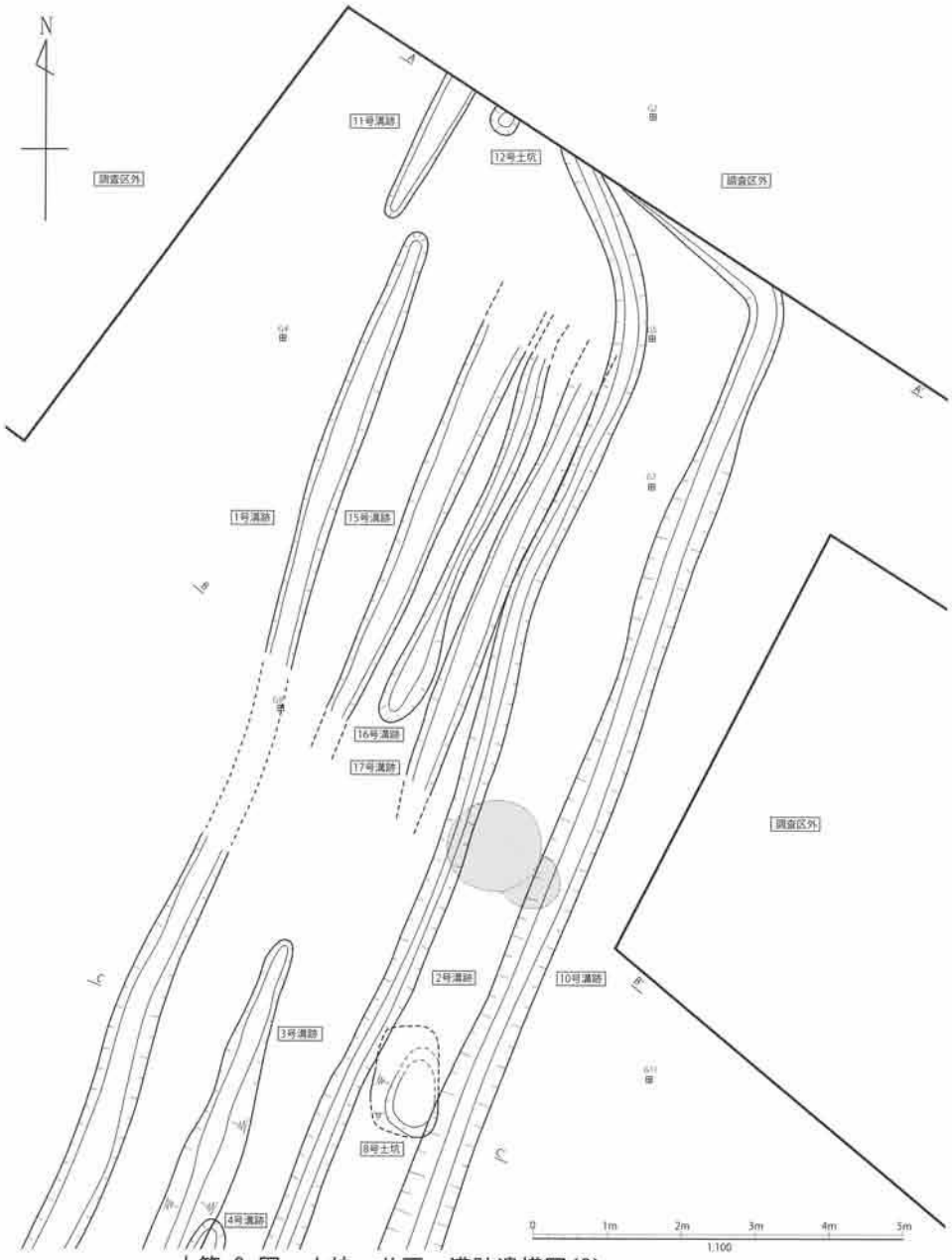
3. 弥生土器甕。胴部片。外面は斜め方向のハケを施し、一部に赤彩が残る。内面はナデ整形。胎土には小石を含む。色調はにぶい黄橙色10YR7/4。焼成良好。弥生時代後期。

4. 縄文土器片。断面三角形の隆線に沿って幅広の連続爪形文を施す。内面はナデを施す。胎土には粗砂・白色粒子・雲母粒子を含む。色調は、外面にぶい褐色7.5YR5/4・内面灰黄褐色10YR5/2。焼成良好。阿玉台Ⅲ式期。

5. 楔形石器。長さ3.3cm・幅1.7cm・重量7.54g。黒曜石製。先端に細かい押圧剥離を施す。上端に割れ円錐の痕跡を残す。



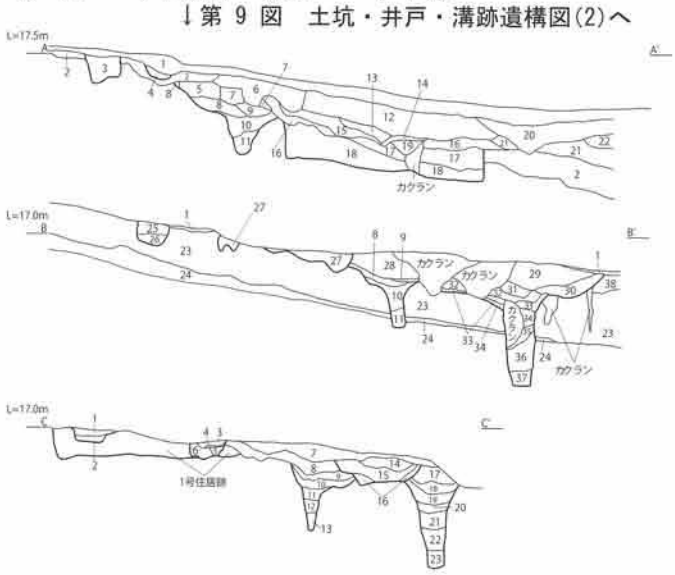
第7図　2号住居跡出土遺物



↓第 9 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(2)へ

A-A'・B-B' 共通

1. 暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性無。しまり有。1～3mm大のローム粒子を非常に多量に。20mm大のロームブロック・赤色スコリア粒子・炭化物粒子を微量に含む。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。1～2mm大のローム粒子多量に。20mm大のロームブロック少量に。炭化物粒子微量に含む。地山。
3. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性無。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に。ロームブロック非常に多量に含む。
4. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性無。しまり弱。1～3mm大のローム粒子多量に。5mm大のローム粒子少量含む。
5. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり無。1～3mm大のローム粒子多量に。5mm大のローム粒子・10mm大のロームブロック微量に含む。
6. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に。5mm大のローム粒子・赤色スコリア粒子・炭化物粒子微量に含む。
7. 灰褐色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり弱。ローム粒子・ロームブロック非常に多量に含む。
8. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり無。2～3mm大のローム粒子多量に。20mm大のロームブロック微量に含む。
9. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり無。2～3mm大のローム粒子多量に含む。
10. 灰褐色土(7.5YR4/1)　粘性やや有。しまり無。2～3mm大のローム粒子多量に。10mm大のロームブロック・赤色スコリア粒子微量に含む。
11. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性やや有。しまり無。ロームブロック非常に多量に含む。
12. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。1～2mm大のローム粒子多量に。10mm大のロームブロック・赤色スコリア粒子・炭化物粒子微量に含む。
13. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。1～2mm大のローム粒子多量に。20mm大のロームブロック・灰褐色土(7.5YR4/2)ブロック微量に含む。
14. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり無。砂質土。
15. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性やや有。しまり弱。5mm大のローム粒子多量に。ロームブロック少量含む。
16. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり弱。1～5mm大のローム粒子多量に。赤色スコリア粒子微量に含む。
17. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性無。しまり無。ロームブロックを非常に多量に含む。
18. 明黄褐色土(10YR6/8)　粘性有。しまり無。崩れたロームブロックを主体とし、黒色土(7.5YR2/1)ブロックを少量含む。
19. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性有。しまり有。1～5mm大のローム粒子非常に多量に含む。
20. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性やや有。しまり弱。砂質土。1～3mm大のローム粒子多量に。赤色スコリア粒子・黒褐色土(10YR3/1)ブロック微量に含む。
21. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性有。1～3mm大のローム粒子微量に含む。
22. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性有。しまり弱。1～3mm大のローム粒子・赤色スコリア粒子微量に含む。
23. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に。赤色スコリア粒子微量に含む。地山。
24. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性有。しまり有。1～2mm大のローム粒子・赤色スコリア粒子多量に含む。地山。
25. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり有。砂質土。1～2mm大のローム粒子・褐色土(7.5YR4/3)ブロック多量に含む。
26. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性やや有。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子・褐色土(7.5YR4/3)ブロック少量。赤色スコリア粒子微量に含む。
27. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大のローム粒子少量。黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック非常に多量に含む。
28. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり有。2～5mm大のローム粒子多量に。20mm大のロームブロック・赤色スコリア粒子微量に含む。
29. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。1～3mm大のローム粒子多量に。赤色スコリア粒子・炭化物粒子微量に含む。
30. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性無。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に。赤色スコリア粒子・炭化物粒子・10mm大の白色土ブロック微量に含む。
31. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に。赤色スコリア粒子微量に含む。
32. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり弱。1～2mm大のローム粒子少量。炭化物粒子微量に含む。粘性やや有。しまり弱。
33. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性やや有。しまり弱。1～3mm大のローム粒子多量に。炭化物粒子少量・焼土粒子微量に含む。
34. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性やや有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に。10～20mm大の18. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子・20～30mm大のロームブロック多量に。炭化物粒子少量に含む。
35. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子20～30mm大のロームブロック多量に。炭化物少量に含む。
36. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり弱。10mm大のロームブロック微量に含む。
37. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性無。しまり無。ロームブロック主体的に含む。
38. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性やや有。しまり有。1mm大のローム粒子多量に含む。

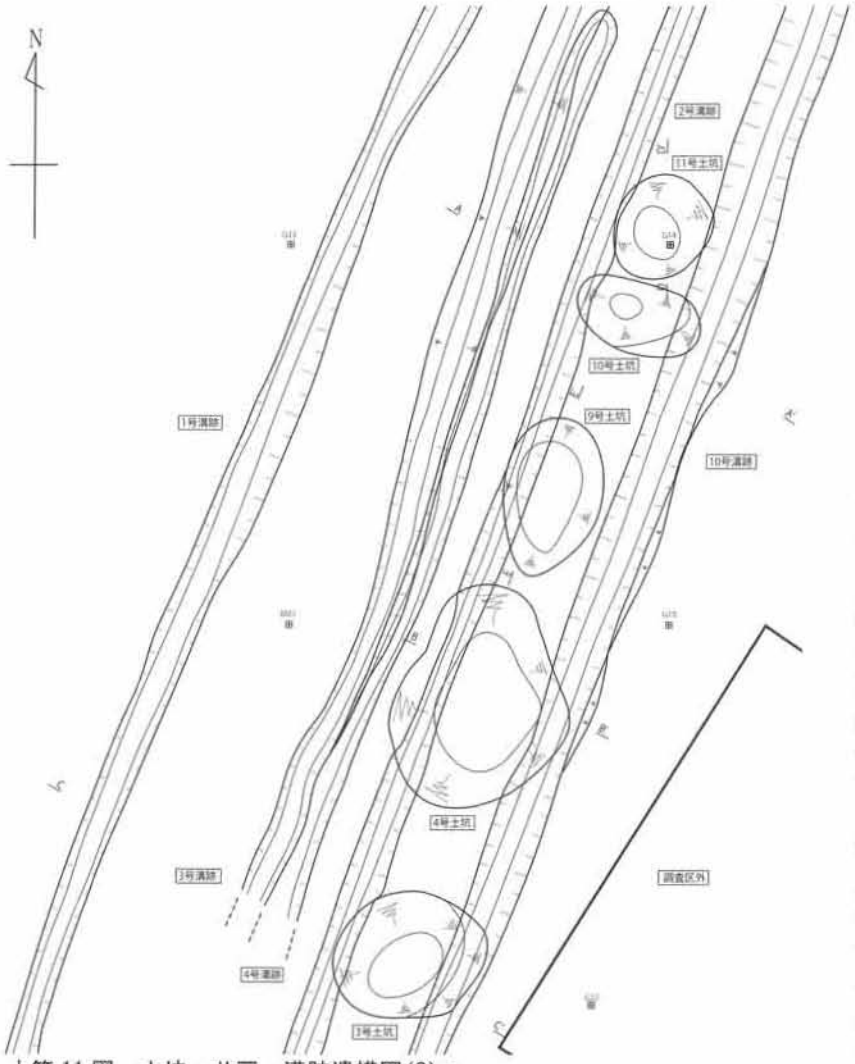


C-C'

1. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり有。砂質土。1～2mm大のローム粒子・褐色土(7.5YR4/3)ブロック多量に含む。
2. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性やや有。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子・褐色土(7.5YR4/3)ブロック少量に。赤色スコリア粒子微量に含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子多量に。赤色スコリア粒子微量に含む。
4. 明黄褐色土(10YR6/8)　1～2mm大の砂質土(火山灰か)粒子の純層。
5. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり弱。砂質土。明黄褐色土(10YR6/8)粒子・2～3mm大のローム粒子少量含む。
6. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり弱。砂質土。黒褐色土(7.5YR3/2)ブロック非常に多量に。1～2mm大のローム粒子・炭化物粒子微量に含む。
7. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性やや有。しまり有。2～3mm大の焼土粒子多量に。黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック少量に。炭化物粒子微量に含む。
8. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性やや有。しまり弱。2～3mm大の焼土粒子多量に含む。
9. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり弱。1～2mm大の焼土粒子少量に含む。
10. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり弱。1～2mm大の焼土粒子微量に含む。
11. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性やや有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に。5mm大のローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
12. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に。黒色土(7.5YR2/1)ブロック少量含む。
13. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性有。しまり無。明黄褐色土(10YR6/8)ブロック多量に含む。
14. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。1～2mm大の白色粒子少量に。焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
15. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり有。砂質土。1～2mm大の焼土粒子・白色粒子少量に。10mm大の白色ブロック微量に含む。
16. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり有。砂質土。1～2mm大の焼土粒子・白色粒子多量に含む。
17. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性有。しまり有。1～2mm大の焼土粒子・白色粒子多量に。炭化物粒子微量に含む。
18. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大の焼土粒子・白色粒子少量含む。
19. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大のローム粒子多量に。10mm大のロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
20. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大のローム粒子・灰褐色土(7.5YR4/2)ブロック多量に含む。
21. 黒褐色土(7.5YR2/1)　粘性やや有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子・20～30mm大のロームブロック多量に。炭化物粒子少量含む。
22. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり弱。10mm大のロームブロック微量に含む。
23. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性無。しまり無。ロームブロックを非常に多量に含む。

第 8 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(1)

↑第 8 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(1)へ



A-A'

1. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に、赤色スコリア粒子微量に含む。地山。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり有。1～2mm大の明黄褐色土(10YR6/8)粒子(砂質。火山灰か)集中的に含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子多量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
4. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり弱。砂質土。黒褐色土(7.5YR3/2)ブロック非常に多量に、1～2mm大のローム粒子・炭化物粒子微量に含む。
5. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり弱。砂質土。明黄褐色土(10YR6/8)粒子(砂質。火山灰か)・2～3mm大のローム粒子少量に含む。
6. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大のローム粒子少量に含む。
7. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性やや有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
8. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性やや有。しまり有。砂質土。2～3mm大のローム粒子多量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
9. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に、黒色土(7.5YR2/1)ブロック少量含む。
10. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性有。しまり無。明黄褐色土(10YR6/8)ブロック多量に含む。
11. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり有。10～20mm大の黒褐色土(7.5YR3/2)ブロック主体的に含む。
12. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子少量に含む。
13. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。砂質土。2～3mm大のローム粒子多量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
14. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に含む。
15. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性やや有。しまり弱。黒色土(7.5YR2/1)ブロック帯状に含む。
16. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性やや有。しまり無。2～3mm大のローム粒子微量に含む。
17. 暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性無。しまり有。1～3mm大のローム粒子を非常に多量に、20mm大のロームブロック・赤色スコリア粒子・炭化物粒子を微量に含む。地山。

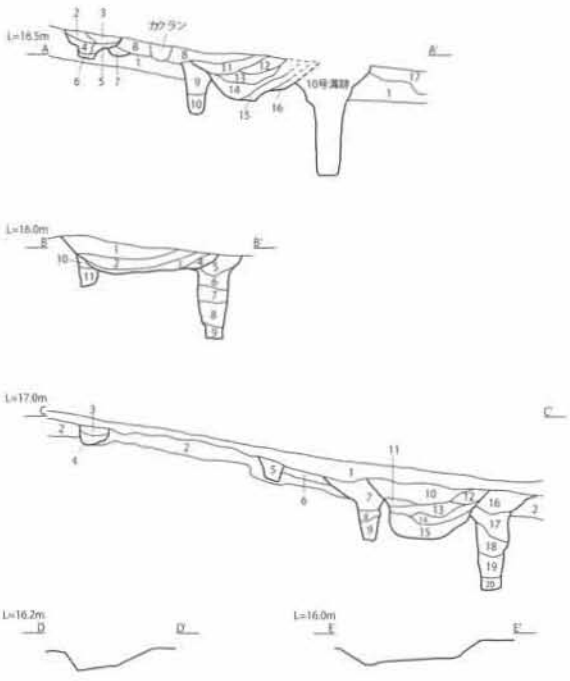
B-B'

1. 赤黒色土(10YR2/1)　粘性やや有。しまり弱。1～1.5mm大のローム粒子含む。
2. 極暗赤褐色土(10YR2/2)　粘性やや有。しまり弱。2mm大のローム粒子・黒色土含む。
3. 極暗赤褐色土(10YR2/2)　粘性やや有。しまり弱。2mm大のローム粒子少量に含む。
4. 黒色土(7.5YR2/2)　粘性やや有。しまり弱。1mm大のローム粒子少量に含む。
5. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性やや有。しまり弱。1～3mm大のローム粒子多量に、炭化物粒子・焼土粒子微量に含む。
6. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性やや有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に、10～20mm大のロームブロック・炭化物粒子少量に、焼土粒子微量に含む。
7. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子・20～30mm大のロームブロック多量に、炭化物粒子少量含む。
8. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり弱。10mm大のロームブロック微量に含む。
9. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性無。しまり無。ロームブロックを非常に多量に含む。
10. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に、黒色土(7.5YR2/1)ブロック少量含む。
11. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性有。しまり無。明黄褐色土(10YR6/8)ブロック多量に含む。

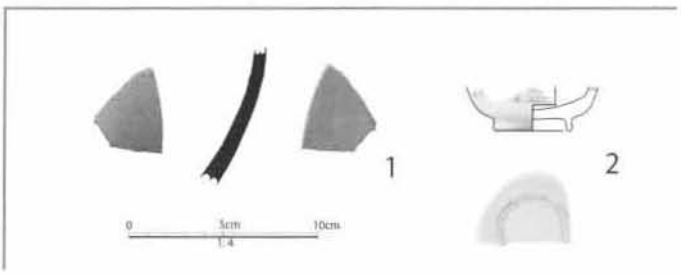
C-C'

1. 暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性無。しまり有。1～3mm大のローム粒子を非常に多量に、20mm大のロームブロック・赤色スコリア粒子・炭化物粒子を微量に含む。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
3. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子・褐色土(7.5YR4/3)ブロック多量に含む。
4. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性やや有。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子・褐色土(7.5YR4/3)ブロック少量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
5. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり弱。砂質土。黒褐色土(7.5YR3/2)ブロック非常に多量に、1～2mm大のローム粒子・炭化物粒子微量に含む。
6. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性やや有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
7. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性やや有。しまり有。1～2mm大のローム粒子多量に、5mm大のローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
8. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に、黒色土(7.5YR2/1)ブロック少量含む。
9. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性有。しまり無。明黄褐色土(10YR6/8)ブロック多量に含む。
10. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性やや有。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子多量に、10mm大のロームブロック微量に含む。
11. 灰褐色土(7.5YR5/2)　粘性無。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子少量に含む。
12. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり弱。砂質土。1～3mm大のローム粒子・10mm大の黒色土(7.5YR2/1)ブロック多量に含む。
13. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性やや有。しまり弱。砂質土。1mm大のローム粒子少量に、10～20mm大の黒色土(7.5YR2/1)ブロック主体的に含む。
14. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性やや有。しまり弱。黒褐色土(7.5YR3/2)ブロック主体的に含む。
15. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性無。しまり弱。砂質土。10～20mm大の黒色土(7.5YR2/1)ブロック少量含む。
16. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性やや有。しまり弱。1～3mm大のローム粒子多量に、炭化物粒子・焼土粒子微量に含む。
17. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性やや有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に、10～20mm大のロームブロック・炭化物粒子少量に、焼土粒子微量に含む。
18. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子・20～30mm大のロームブロック多量に、炭化物粒子少量含む。
19. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり弱。10mm大のロームブロック微量に含む。
20. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性無。しまり無。ロームブロックを非常に多量に含む。

↓第 11 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(3)へ

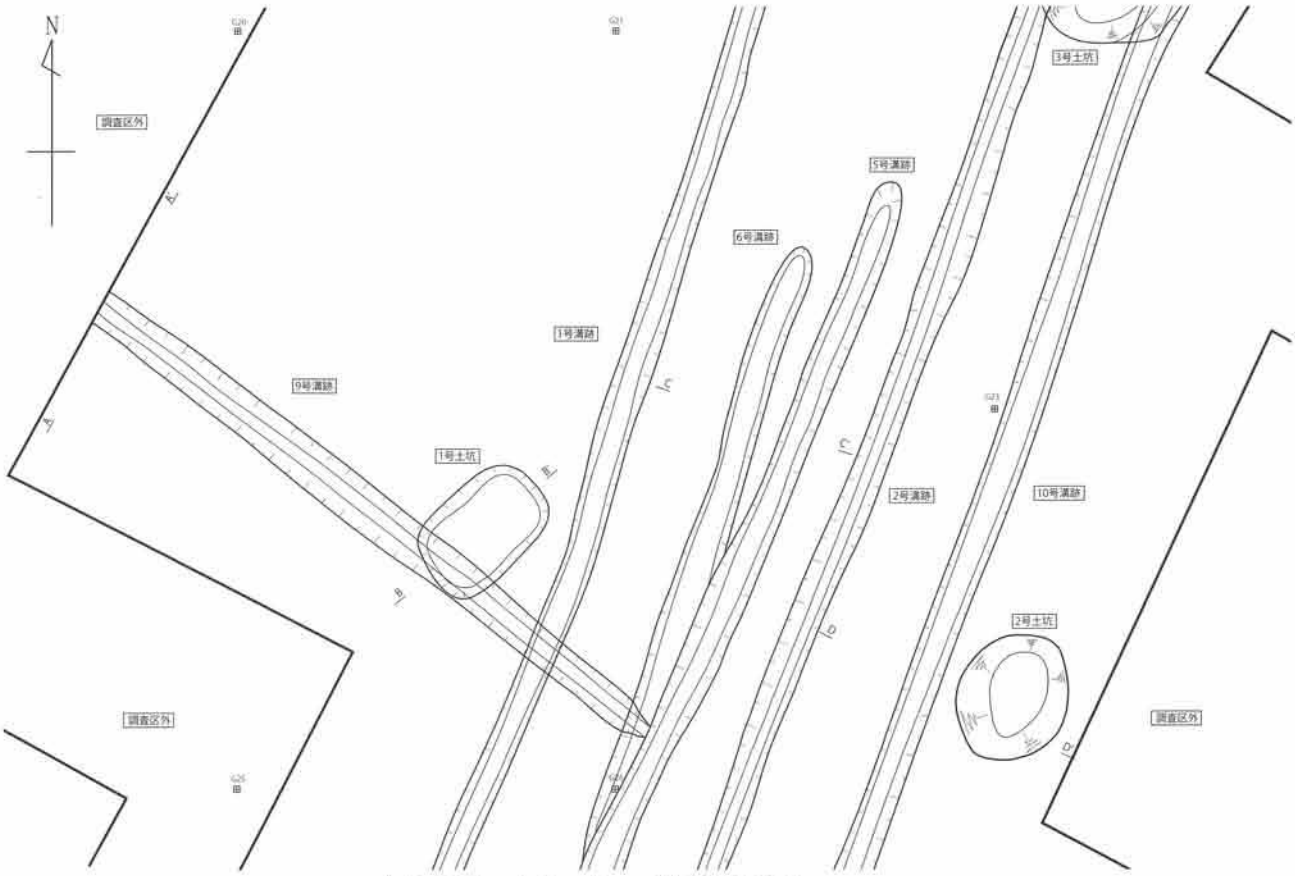


第 9 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(2)

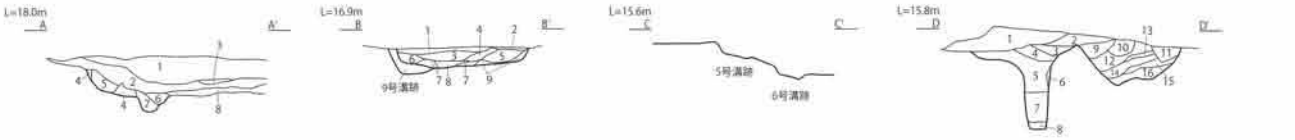


第 10 図　土坑出土遺物

↑第 9 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(2)へ



↓第 12 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(4)へ



A-A'

1. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性やや有。しまり弱。1～3mm大のローム粒子多量に含む。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性有。しまり弱。1～3mm大のローム粒子多量に、10mm大のロームブロック・赤色スコリア粒子微量に含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性有。しまり無。ロームブロック主体的に含む。
4. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性やや有。しまり無。ロームブロック主体的に含む。
5. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性やや有。しまり弱。砂質土。1～2mm大のローム粒子多量に含む。
6. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり無。ロームブロック主体的に含む。
7. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性やや有。しまり弱。3～4mm大のローム粒子多量に含む。
8. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に、黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック少量に含む。

B-B'

1. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり無。1～2mm大のローム粒子少量に、赤色スコリア粒子微量に含む。
2. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり無。1mm大のローム粒子多量に、10mm大のロームブロック・炭化物粒子微量に含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大のローム粒子微量に含む。
4. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性やや有。しまり無。1～2mm大のローム粒子多量に、10～20mm大のロームブロック微量に含む。
5. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大のローム粒子多量に、30mm大のロームブロック・赤色スコリア粒子微量に含む。
6. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり無。2～3mm大のローム粒子少量に、10～20mm大のロームブロック微量に含む。
7. 灰褐色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり無。2～3mm大のローム粒子多量に、10～20mm大の黒褐色土(7.5YR3/2)ブロック少量含む。
8. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり無。1～3mm大のローム粒子多量に、20～30mm大のロームブロック微量に含む。
9. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性無。しまり無。砂質土。1～2mm大のローム粒子多量に含む。

D-D'

1. 暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性やや有。しまり弱。砂質土。1～3mm大のローム粒子・20～30mm大の黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック多量に、10mm大のロームブロック少量、赤色スコリア粒子微量に含む。
2. 暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性無。しまり弱。砂質土。2～3mm大のローム粒子・1mm大の赤色スコリア粒子微量に、黒褐色土(7.5YR3/1)を帯状に含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性やや有。しまり弱。1～3mm大のローム粒子多量に、炭化物粒子・焼土粒子微量に含む。
4. 褐灰色土(7.5YR4/2)　粘性やや有。しまり弱。1～3mm大のローム粒子多量に、黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック少量に含む。
5. 黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性やや有。しまり弱。2～3mm大のローム粒子多量に、10～20mm大のロームブロック・炭化物粒子少量に、焼土粒子微量に含む。
6. 褐灰色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり無。20mm大のロームブロック主体的に含む。壁面の崩落土。
7. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性無。しまり弱。10mm大のロームブロック微量に含む。
8. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性無。しまり無。ロームブロックを非常に多量に含む。
9. 褐灰色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり弱。砂質土。2～3mm大のローム粒子・赤色スコリア粒子微量に含む。
10. 褐灰色土(7.5YR4/1)　粘性無。しまり無。砂質土。1～2mm大のローム粒子・黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック多量に含む。
11. 褐灰色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり有。砂質土。2～3mm大のローム粒子多量に、黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック微量に含む。
12. 褐灰色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり弱。1～2mm大のローム粒子多量に、にぶい褐色土(7.5YR5/3)ブロック少量に含む。
13. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性有。しまり有。褐灰色土(7.5YR4/2)ブロック多量に含む。
14. 褐灰色土(7.5YR4/2)　粘性無。しまり無。砂質土。2～3mm大のローム粒子・4～5mm大の黒褐色土(7.5YR3/1)ブロック多量に含む。
15. 黒褐色土(7.5YR3/1)　粘性有。しまり有。2～3mm大のローム粒子多量に含む。
16. 黒色土(7.5YR2/1)　粘性有。しまり弱。ロームブロック主体的に含む。

第 11 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(3)

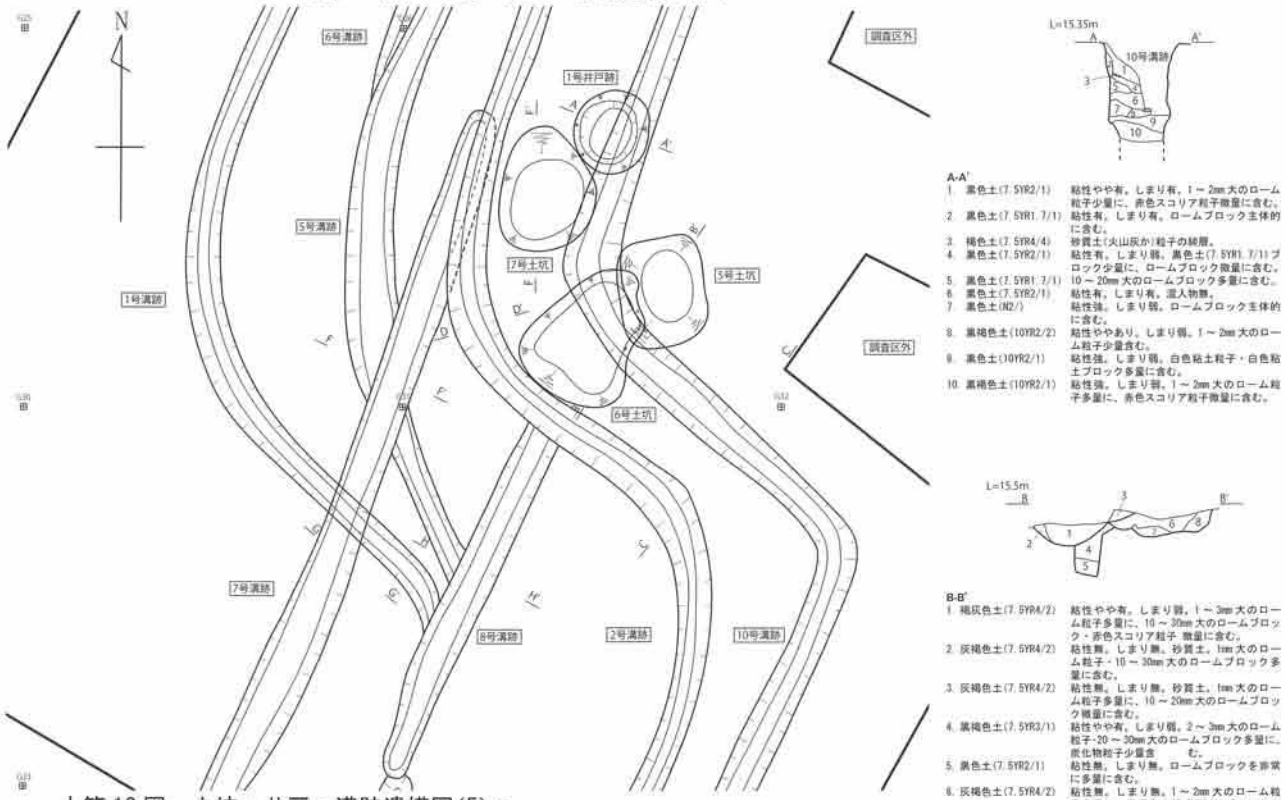
1 号土坑(第 11 図)

本遺構は、調査区の中央やや南寄りに位置する。平面形は長軸 1.8 m×短軸 1.1 mの隅丸長方形を呈し、長軸方位はN -50°- Eである。確認面からの深さは 23 ～ 27cm で、断面形は逆台形を呈する。9 号溝跡を切る。

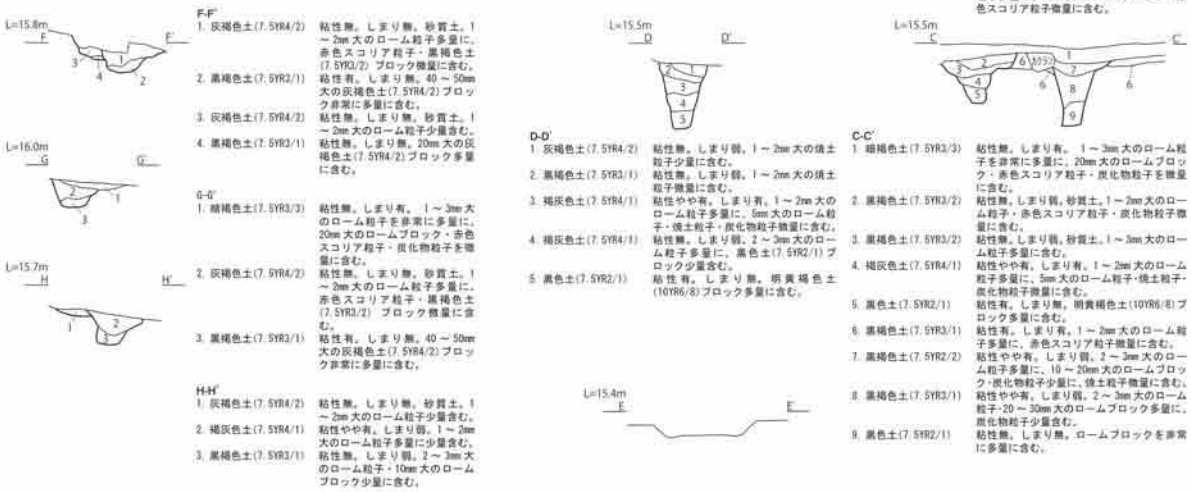
出土遺物は、須恵器片 2 点・土師器片 2 点であるが、いずれも小破片であり図化し得なかった。

2 号土坑(第 11 図)

↑第 11 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(3)へ



↓第 13 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(5)へ



第 12 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(4)

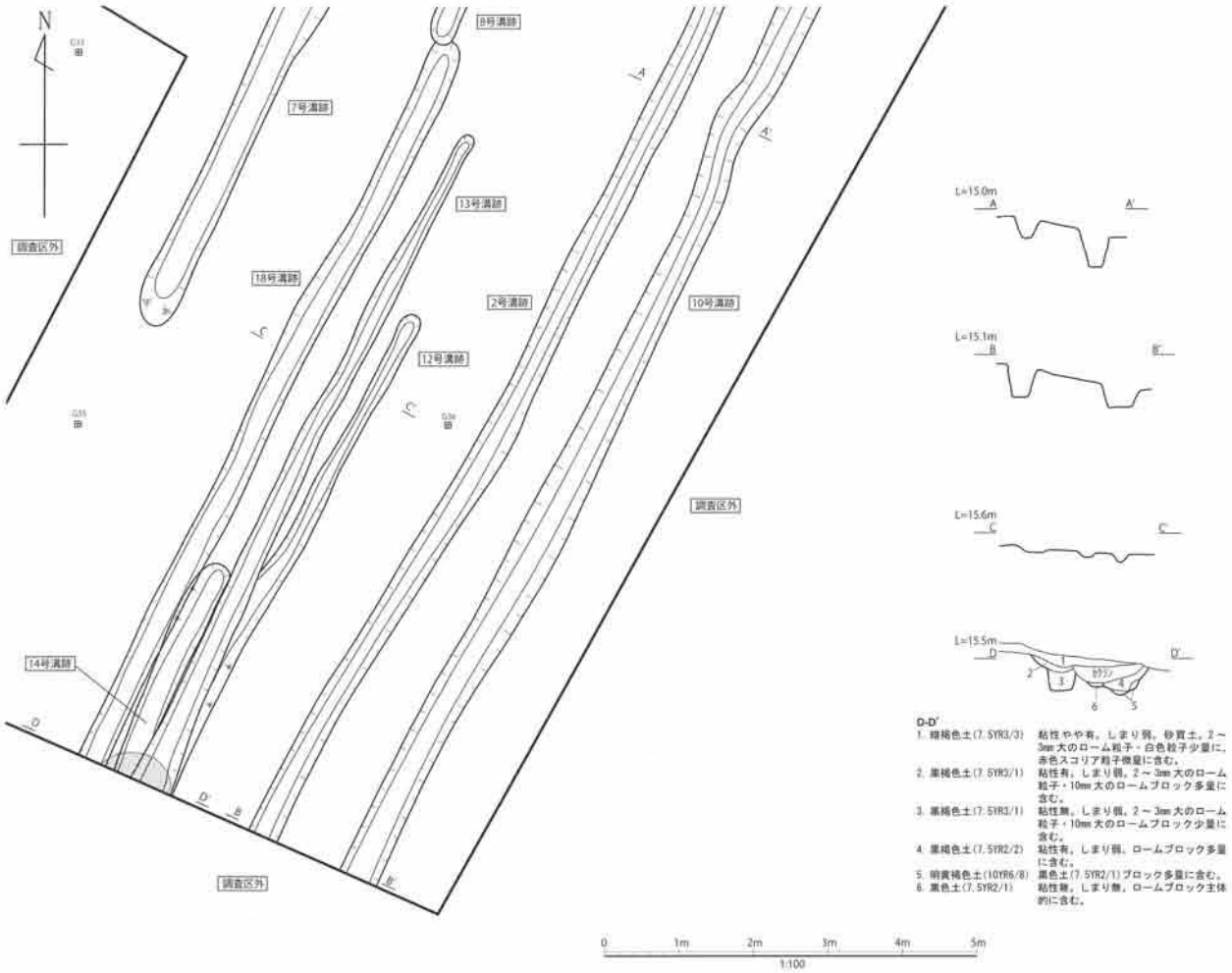
本遺構は、調査区の中央やや南寄りに位置する。平面形は長軸 1.7 m×短軸 1.3 mの長楕円形を呈し、長軸方位はN -5°- Eである。最深部までの深さは 50cm で、断面形はすり鉢状を呈する。10 号溝跡に近接するが、前後関係は不明であった。

出土遺物は、縄文土器片 3 点・須恵器片 2 点であり、図化し得たのは第 10 図 1 の須恵器片のみである。

3 号土坑(第 9 図)

本遺構は、調査区の中央に位置する。平面形は長軸 2 m×短軸 1.6 mの楕円形を呈し、長軸方位はN -54°- Eである。最深部までの深さは 80cm で、断面形はすり鉢状を呈する。2 号溝跡・10 号溝跡を切る。遺物の出土はなかった。

↑第 12 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(4)へ



第 13 図　土坑・井戸・溝跡遺構図(5)

4 号土坑(第 9 図)

本遺構は、調査区の中央に位置する。平面形は長軸 3 m×短軸 2.3 mの不整楕円形を呈し、長軸方位はN -20° - Eである。最深部までの深さは 50cm で、断面形はすり鉢状を呈する。2 号溝跡・10 号溝跡を切る。

出土遺物は縄文土器片 1 点であり、図化し得なかった。

5 号土坑(第 12 図)

本遺構は、調査区の中央やや南寄りに位置する。平面形は長軸 1.5 m×短軸 0.95 mの長楕円形を呈し、長軸方位はN -13° - Wである。確認面からの深さは 30cm で、断面形はすり鉢状を呈し、底面には凹凸が見られる。覆土は、ロームブロックを主体としたしまりのない土であり、倒木痕の可能性がある。10 号溝跡を切り、6 号土坑に切られる。遺物の出土はなかった。

6 号土坑(第 12 図)

本遺構は、調査区の中央やや南寄りに位置する。平面形は長軸 1.8 m×短軸 1.2 mの不整楕円形を呈し、長軸方位はN -42° - Eである。最深部までの深さは 30cm で、断面形はすり鉢状を呈し、底面には凹凸が見られる。8 号溝跡・10 号溝跡・5 号土坑を切る。

出土遺物は、陶磁器片 2 点であり、そのうち 1 点のみ図化し得た(第 10 図 2)。

7号土坑(第12図)

本遺構は、調査区の中央やや南寄りに位置する。平面形は長軸1.5 m×短軸1.3 mの楕円形を呈し、長軸方位はN -7°- Eである。確認面からの深さは30cmで、断面形はすり鉢状を呈し、底面には凹凸が見られる。10号溝跡を切る。1号井戸跡とは接するが直接的な切り合い関係は認められない。遺物の出土はなかった。

8号土坑(第8図)

本遺構は、調査区の北半に位置する。カクランによって北半分を失っているが、平面形は長軸(推定) 1.4 m×短軸(推定) 1.2 mの楕円形を呈すると思われる。確認面からの深さは20～35cmで、断面形はすり鉢状を呈し、底面には凹凸が見られる。2号溝跡・10号溝跡を切る。出土遺物は、縄文土器片・土師器片・須恵器片など総点数30点であるが、いずれも小破片であり図化し得なかった。

9号土坑(第9図)

本遺構は、調査区の中央やや北寄りに位置する。平面形は長軸2.1 m×短軸1.3 mの長楕円形を呈し、長軸方位はN -14°- Eである。確認面からの深さは40cmで、断面形はすり鉢状を呈する。2号溝跡・10号溝跡を切る。遺物の出土はなかった。

10号土坑(第9図)

本遺構は、調査区の中央やや北寄りに位置する。平面形は長軸1.1 m×短軸0.7 mの長楕円形を呈し、長軸方位はN -75°- Eである。確認面からの深さは30cmで、断面形はなだらかな窪み状を呈する。2号溝跡・10号溝跡を切る。11号土坑と接するが、切り合い関係は認められなかった。遺物の出土はなかった。

11号土坑(第9図)

本遺構は、調査区の中央やや北寄りに位置する。平面形は長軸1.4 m×短軸1.2 mの楕円形を呈し、長軸方位はN -33°- Eである。確認面からの深さは40cmで、断面形はなだらかな窪み状を呈する。2号溝跡・10号溝跡を切る。10号土坑と接するが、切り合い関係は認められなかった。遺物の出土はなかった。

12号土坑(第8図)

本遺構は、調査区の北端に位置し、北端は調査区外へ延びる。平面形は現状では幅35cmの半円形を呈する。確認面からの深さは20cmで、断面形は丸みを帯びた舟底形を呈する。遺物の出土はなかった。

土坑出土遺物(第10図)

1. 須恵器甕。胴部破片。内外面共ロクロ調整によるナデが残る。胎土には粗砂・細砂・白色粒子を含む。色調は青灰色5PB6/1。焼成良好。東金子窯跡群産。2号土坑出土。

2. 染付茶碗。高台径3.9cm・残存高2.5cm。6号土坑出土。

1号井戸跡(第12図)

本遺構は、調査区の中央やや南寄りに位置する。平面形は上幅1.05 × 0.95 m・下幅0.8 × 0.6 mのほぼ円形を呈する。確認面から深さ1.3 mの地点で礫層にあたった。覆土はロームブロックを主体的に含む黒色土が中心で、中間には周囲の壁から崩落した礫も堆積していた。10号溝跡を切る。7号土坑とは接するが直接的な切り合い関係は認められない。出土遺物は、常滑甕片1点が出土したが、小破片であり図化し得なかった。

1号溝跡(第8・9・11・12図)

本遺構は、調査区全域にわたり北東―南西方向に延びている。調査区南半で南東に折れ曲がり、8号溝跡に切られることで連続性は不明瞭だが、18号溝跡に接続するものと考えられる。残存長は47.5mである。溝幅は、上幅が確認面で40～48cm（断面観察では60～80cm）・下幅が20～30cm、深さが確認面から15～30cmである。断面形は箱形を基本とし、底面が平らではなく斜めになる箇所も見られた。本遺構と軸方向を同じくして、東側に2号溝跡と10号溝跡が存在する。1号住居跡及び9号溝跡を切り、7号溝跡と8号溝跡に切られる。

出土遺物は、縄文土器片・弥生土器片・土師器片・須恵器片・平瓦片・粘土塊など総点数86点であり、そのうち図化し得たのは第14図1の須恵器片のみであった。

2号溝跡(第8・9・11・12・13図)

本遺構は、調査区全域にわたり北東―南西方向に延びている。1号溝跡と軸方向を同じくし、調査区南半でクランク状に折れ曲がり、北東端・南西端は調査区外へ延びる。残存長は63.3mである。溝幅は、上幅が確認面で28～40cm（断面観察では80～100cm）・下幅が10～20cm、深さが確認面から45～50cm（断面観察では80～90cm）である。断面形は箱薬研形を呈し、底面には凹凸が少ない。最下層にロームブロックを非常に多く含んだしまりのない黒色土が堆積しているが、特に水の流れたような痕跡は見られなかった。7号溝跡・8号溝跡・3号土坑・4号土坑・6号土坑～11号土坑に切られ、10号溝跡・1号住居跡を切る。

出土遺物は、縄文土器片・弥生土器片・土師器片・須恵器片・平瓦片・陶磁器片・鉄釘など総点数251点であり、そのうち図化し得たのは、須恵器片（第14図2）・平瓦片(第14図6)・縄文土器片(第14図8)・鉄釘(第14図11)のみであった。

3号溝跡(第8・9図)

本遺構は、調査区北半に位置し、北東―南西方向に延びている。両端をカクランにより破壊され、残存長は16.5mである。溝幅は、上幅が30～50cm・下幅が20～35cm、深さが20～25cmである。断面形は箱形ないし逆台形を呈し、底面には凹凸が見られる。1号住居跡・4号溝跡を切る。

出土遺物は、縄文土器片・弥生土器片・土師器片・粘土塊・礫など総点数45点であるが、小破片であり図化し得なかった。

4号溝跡(第8・9図)

本遺構は、調査区北半に位置し、北東―南西方向に延びている。南西端をカクランにより破壊され、残存長は12.5mである。溝幅は、上幅が30～35cm・下幅が10～17cm、深さが10cmである。断面形は丸みを帯びた舟底形を呈し、底面は凹凸が見られる。2号溝跡・3号溝跡に切られる。

出土遺物は、縄文土器片・弥生土器片・土師器片・須恵器片など総点数123点であり、図化し得たのは第14図3の須恵器片のみであった。

5号溝跡(第11・12図)

本遺構は、調査区中央に位置し、南方向へ湾曲しながら北東―南西方向に延びている。南端は8号溝跡に切られ、その先は検出できなかった。残存長は15.8mである。溝幅は、上幅が40～48cm・下幅が15～33cm、深さ30cmである。断面形は逆台形を呈し、底面には凹凸が見られる。6号溝跡・9号溝跡を切り、7号溝跡・8号溝跡に切られる。遺物の出土はなかった。

6 号溝跡(第 11・12 図)

本遺構は、調査区中央に位置し、北東―南西方向に延びている。南端を 5 号溝に切られ、残存長は 8.3 m である。溝幅は、上幅が 30 ～ 43cm・下幅が 13 ～ 25cm、深さが 20cm である。断面形は逆台形を呈し、底面には凹凸が見られる。5 号溝跡に切られ、9 号溝跡を切る。遺物の出土はなかった。

7 号溝跡(第 12・13 図)

本遺構は、調査区南半に位置し、北東―南西方向に延びている。総延長は 10.7 m である。溝幅は、上幅が 55 ～ 70cm・下幅が 40cm、深さが 35 ～ 40cm である。断面形は逆台形を呈し、底面は凹凸が少ない。1 号溝跡・2 号溝跡・5 号溝跡を切り、7 号土坑に切られる。

出土遺物は、縄文土器片・弥生土器片・土師器片・石器など総点数 11 点であり、そのうち図化し得たのは第 14 図 12 の二次加工のある剥片のみであった。

8 号溝跡(第 12 図)

本遺構は、調査区南半に位置し、北東―南西方向に延びている。総延長は 6 m である。溝幅は、上幅が 35cm・下幅が 20cm、深さ 25cm である。断面形は箱形を呈し、底面には凹凸が少ない。1 号溝跡・5 号溝跡・18 号溝跡を切り、6 号土坑に切られる。2 号溝跡との前後関係は不明であった。遺物の出土はなかった。

9 号溝跡(第 11 図)

本遺構は、調査区中央に位置し、北西―南東方向に延びている。北西端は調査区外へ延び、残存長は 9.2 m である。溝幅は、上幅が確認面で 45cm (断面観察では 1.2 m)・下幅が 20cm、深さが確認面から 20cm (断面観察では 60cm)である。断面形は丸みを帯びた舟底形を呈し、底面には凹凸が見られない。1 号溝跡・5 号溝跡・6 号溝跡・1 号土坑に切られる。遺物の出土はなかった。

10 号溝跡(第 8・9・11・12・13 図)

本遺構は、調査区全域にわたり北東―南西方向に延びている。1 号溝跡・2 号溝跡と軸方向を同じくし、調査区南半でクランク状に折れ曲がり、北東端・南西端は調査区外へ延びる。残存長は 63.2 m である。溝幅は、上幅が 53 ～ 75cm・下幅が 22 ～ 25cm、深さが 90 ～ 120cm である。断面形は箱薬研形を呈し、底面には凹凸が見られない。2 号溝跡同様、最下層にロームブロックを非常に多く含んだしまりのない黒色土が堆積しているが、特に水の流れたような痕跡は見られなかった。1 号井戸跡を切り、2 号溝跡・3 号土坑・4 号土坑・6 号土坑～ 11 号土坑に切られる。

出土遺物は、縄文土器片・弥生土器片・土師器片・須恵器片など総点数 79 点であり、そのうち図化し得たのは、須恵器片(第 14 図 4・5)・土師器片(第 14 図 7)・縄文土器片(第 14 図 9・10)のみであった。

11 号溝跡(第 8 図)

本遺構は、調査区の北端に位置し、北東―南西方向に延びている。北東端は調査区外に延び、残存長は 2 m である。溝幅は、上幅が 53cm・下幅が 32cm、深さが 20 ～ 40cm である。断面形は箱形を呈し、底面には凹凸が見られる。遺物の出土はなかった。

12 号溝跡(第 13 図)

本遺構は、調査区の南端に位置し、北東―南西方向に延びている。南西端は調査区外へ延び、残存長は 7.2

mである。溝幅は、上幅が28cm・下幅が14cm、深さが20cmである。13号溝跡に切られる。遺物の出土はなかった。

13号溝跡(第13図)

本遺構は、調査区の南端に位置し、北東―南西方向に延びている。南西端は調査区外へ延び、残存長は9.7mである。溝幅は、上幅が32cm・下幅が18cm、深さが30～40cmである。12号溝跡・14号溝跡を切る。遺物の出土はなかった。

14号溝跡(第13図)

本遺構は、調査区の南端に位置し、北東―南西方向に延びている。南西端は調査区外へ延び、残存長は3mである。上端をカクランにより破壊されていたが、溝幅は、上幅が30～40cm・下幅が18～25cm、深さが30cmである。13号溝跡・18号溝跡に切られる。遺物の出土はなかった。

15号溝跡(第8図)

本遺構は、調査区の北端に位置し、北東―南西方向に延びている。両端ともカクランによって破壊され、残存長は5.4mである。溝幅は、上幅が55～65cm・下幅が35～45cm、深さ20cmである。断面形は丸みを帯びた舟底形を呈し、底面には凹凸が見られる。断面観察により、15号溝跡・17号溝跡に同時併存したと見られる。遺物の出土はなかった。

16号溝跡(第8図)

本遺構は、調査区の北端に位置し、北東―南西方向に延びている。北東端がカクランによって破壊され、残存長は5.3mである。溝幅は、上幅が20～40cm・下幅が10～22cm、深さが25～35cmである。断面形は丸みを帯びた舟底形を呈し、底面には凹凸が見られる。15号溝跡・17号溝跡とは同時併存したと見られる。遺物の出土はなかった。

17号溝跡(第8図)

本遺構は、調査区の北端に位置し、北東―南西方向に延びている。両端ともカクランによって破壊され、残存長は5.7mである。溝幅は、上幅が40～50cm・下幅が15～30cm、深さが25～30cmである。断面形は丸みを帯びた舟底形を呈し、底面には凹凸が見られる。2号溝跡を切り、15号溝跡・16号溝跡とは同時併存したと見られる。遺物の出土はなかった。

18号溝跡(第13図)

本遺構は、調査区の南西端に位置し、北東―南西方向に延びている。南西端は調査区外へ延び、残存長は10.8mである。溝幅は、上幅が40～50cm・下幅が20～25cm、深さが10～25cmである。8号溝跡に切られる。8号溝跡に切られることで連続性は不明瞭だが、本来は1号溝跡に接続し、2号溝跡・10号溝跡と同一の性格であったと考えられる。遺物の出土はなかった。

溝跡出土遺物(第14図)

1. 須恵器埦。底部のみ残存。底部復元径9.0cm。内底面にロクロ調整痕を残す。底部糸切り後、回転ヘラケズリ。胎土には細砂・白色粒子・白色針状物を含む。色調は灰色7.5Y6/1。焼成良好。南比企窯跡群産。8

世紀後半。1 号溝出土。

2. 須恵器坏。底部復元径 7.0cm（内底径 6.8cm）。底部左回転糸切り後、無調整。内底面にロクロ調整痕を残す。胎土には粗砂・細砂・白色粒子を含む。色調は灰色 2.5Y5/1。焼成良好。東金子窯跡群産。9 世紀後半。2 号溝跡出土。

3. 須恵器埦。底部復元径 10.0cm。残存高 2.4cm。底部糸切り後、底部周縁及び体部下端に横方向のヘラケズリを施す。内外面にロクロ調整痕を残す。胎土には粗砂・細砂・白色針状物を含む。色調は灰色 N6/。焼成良好。南比企窯跡群産。8 世紀後半。4 号溝跡出土。

4. 須恵器埦。底部径 6.3cm（内底径 5.5cm）。底部は左回転糸切り後、無調整。内底面にロクロ調整痕を明瞭に残す。胎土には粗砂・雲母粒子を含む。色調はにぶい橙色 7.5YR7/3。焼成良好。東金子窯跡群産か。9 世紀後半。10 号溝跡出土。

5. 須恵器壷。底部のみ残存。底部復元径 16.0cm。残存高 4.1cm。内外面にロクロ調整痕を残す。全面的に自然釉が付着する。破砕面にも自然釉が付着することから、焼成の段階でひび割れがあったと考えられる。高台は貼付高台で、貼り付けの際に周縁をナデ調整している。高台端面には、圧着の際に付いたと思われる筋が連続して残る。高台内面が出っ張り接地する。胎土には、小石・粗砂・細砂を含む。色調は青灰色 5PB6/1。焼成良好。10 号溝跡出土。

6. 平瓦。残存長 9.4cm。・残存幅 5.2cm・厚さ 1.7 ～ 1.9cm。広端面に乾燥時の圧痕を残す。おもて面には布目痕を残し、布目の密度は 1cm 角の範囲に縦 7 本×横 7 本。裏面は横方向のナデ。側端面を砥石として転用している。胎土には粗砂・細砂・白色粒子を含む。色調は灰色 N5/。焼成良好。東金子窯跡群産。2 号溝跡出土。

7. 土師器埦。残存高 4.1cm。内外面共に赤彩を施した後、外面は横方向のミガキを密に、内面は放射状のミガキを粗く施す。胎土には細砂を含む。色調は赤褐色 2.5YR4/6。焼成良好。古墳時代後期。10 号溝跡出土。

8. 縄文土器片。口縁直下に交互刺突文が施され、その下には角押文が並行して施される。胎土には小石・粗砂を含む。色調はにぶい黄橙色 10YR6/3。焼成良好。五領ヶ台式期。2 号溝跡出土。

9. 縄文土器片。地文には、Ｌを軸にコイル状にＳ巻きした撚糸文を縦に転がす。胎土には粗砂・細砂・白色粒子・雲母粒子を含む。色調はにぶい黄橙色 10YR7/4。焼成良好。おそらく加曽利ＥⅠ式期か。10 号溝跡出土。

10. 縄文土器片。口縁部に突起がつく。口縁直下に沿って円形の刺突列を施し、その下の微隆起線文は剥落する。地文の縄文は不明瞭。内面はミガキを施す。胎土には白色粒子を含む。色調はにぶい黄橙色 10YR7/3。焼成良好。加曽利ＥⅣ式期。10 号溝跡出土。

11. 鉄釘。先端を欠損する。残存長 8.6cm。頭幅 1.2cm。身幅 0.6cm 角。重量 13.91 g。頭巻釘。2 号溝跡出土。

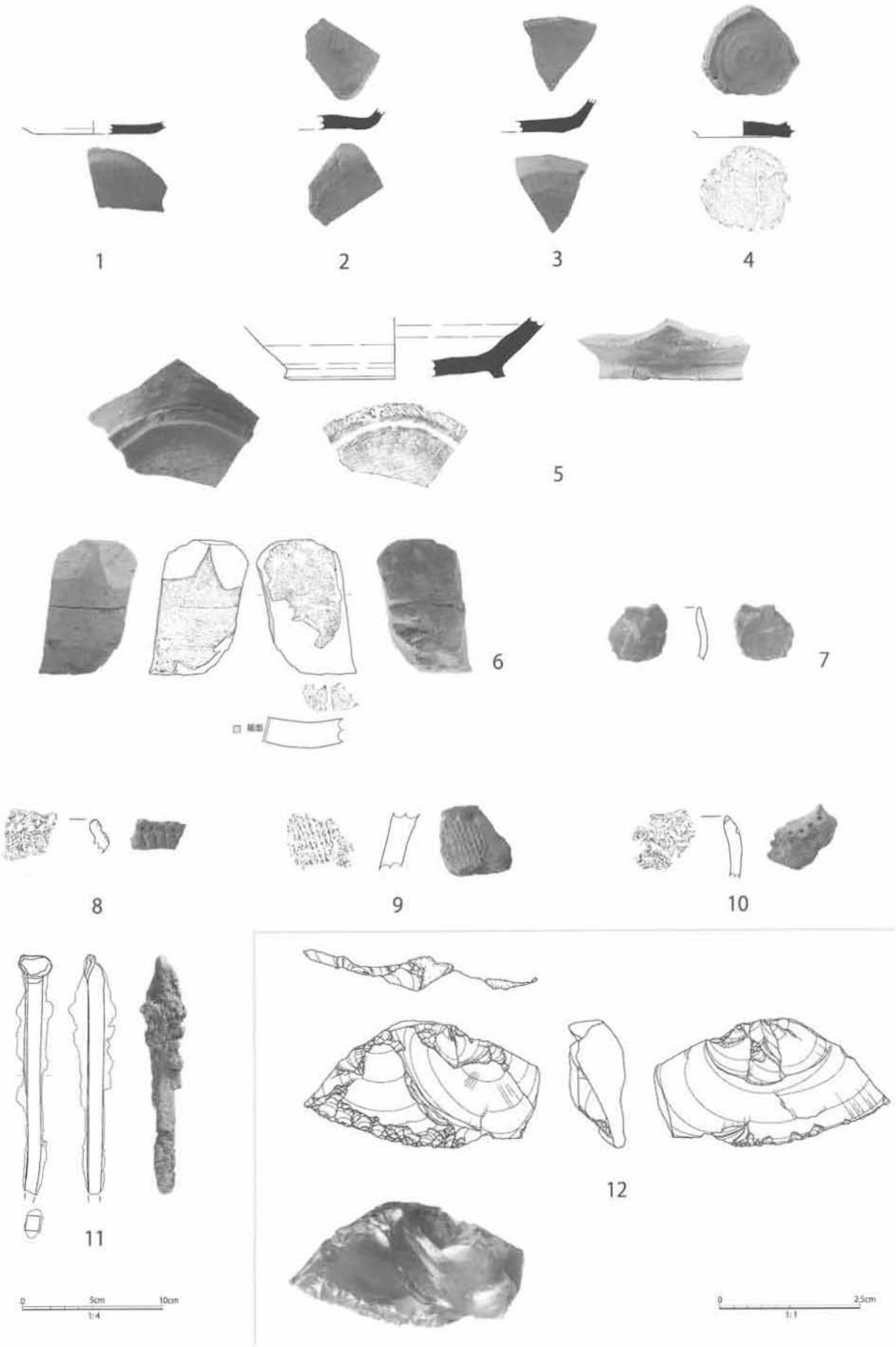
12. 二次加工のある剥片。上端部に原礫面を残す。残存長 4.2cm・幅 2.3cm・重量 4.13 g。横長剥片を利用し、主要剥離面を明瞭に残す。下辺に主要剥離面から押圧剥離を施す。黒曜石製。7 号溝跡出土。

第 3 節　遺構外出土の遺物（第 15 図）

1. 天目茶碗。高台部のみ残存。高台径 5.0cm・内底径 4.4cm・残存高 1.8cm。高台は削り出し。内底面（見込み）に鉄釉。瀬戸美濃産。17 世紀代後半か。

2. カワラケ。底部のみ残存。底径 3.5cm（内底径 3.0cm）。ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。胎土には粗砂・白色粒子を含む。色調は橙色 7.5YR7/6。焼成良好。

3. 灰釉高台付皿。残存高 1.5cm。高台は角高台で削り出し。高台外周に沈線がめぐる。内底面及び外面一部に灰釉が残る。内底面は全面に施釉後、蛇の目状に 1.1cm の幅で削り取る。胎土には細砂を含み、やや砂っぽい手触り。色調は、釉：灰オリーブ色 7.5Y5/3・本体：灰色 5Y6/1。焼成良好。東遠江産。10 世紀代。



第 14 図　溝跡出土遺物

4. 須恵器蓋。復元径 13.0cm・残存高 1.6cm。ロクロ調整。端部折り返し。胎土には粗砂・細砂を含む。色調は灰色 N6/。焼成良好。東金子窯跡群産。

5. 須恵器蓋。復元径 14.0cm・残存高 1.9cm。ロクロ調整。端部折り返し。胎土には細砂・白色粒子を含む。色調は灰色 N5/。焼成良好。東金子窯跡群産。

6. 須恵器甕。内外面ともロクロ調整による横方向のナデ。胎土には粗砂・細砂・白色粒子を含む。色調は青灰色 5PB5/1。焼成良好。東金子窯跡群産か。

7. 土師器甕。口縁部のみ残存。残存高 3.7cm。大きく外反する。内外面とも横方向のナデ。胎土には小石・粗砂・細砂・白色粒子・黒色粒子を含む。色調はにぶい橙色 7.5YR6/4。焼成良好。内面が強く被熱。

8. 縄文土器片。地文は組紐により全面を施文。9mm の間に5本の櫛歯状工具による縦長のコンパス文を施し、その上には半截竹管状工具による斜め方向の並行沈線を施す。胎土には細砂・白色粒子を含む。色調はにぶい黄橙色 10YR6/4。焼成良好。関山Ⅱ式期。

9. 縄文土器片。地文には、1段(R)の軸に0段(1)を逆巻きした附加条を施す。内面はミガキ。胎土には粗砂を含む。色調はにぶい赤褐色 2.5Y4/4。焼成良好。おそらく黒浜式期か。

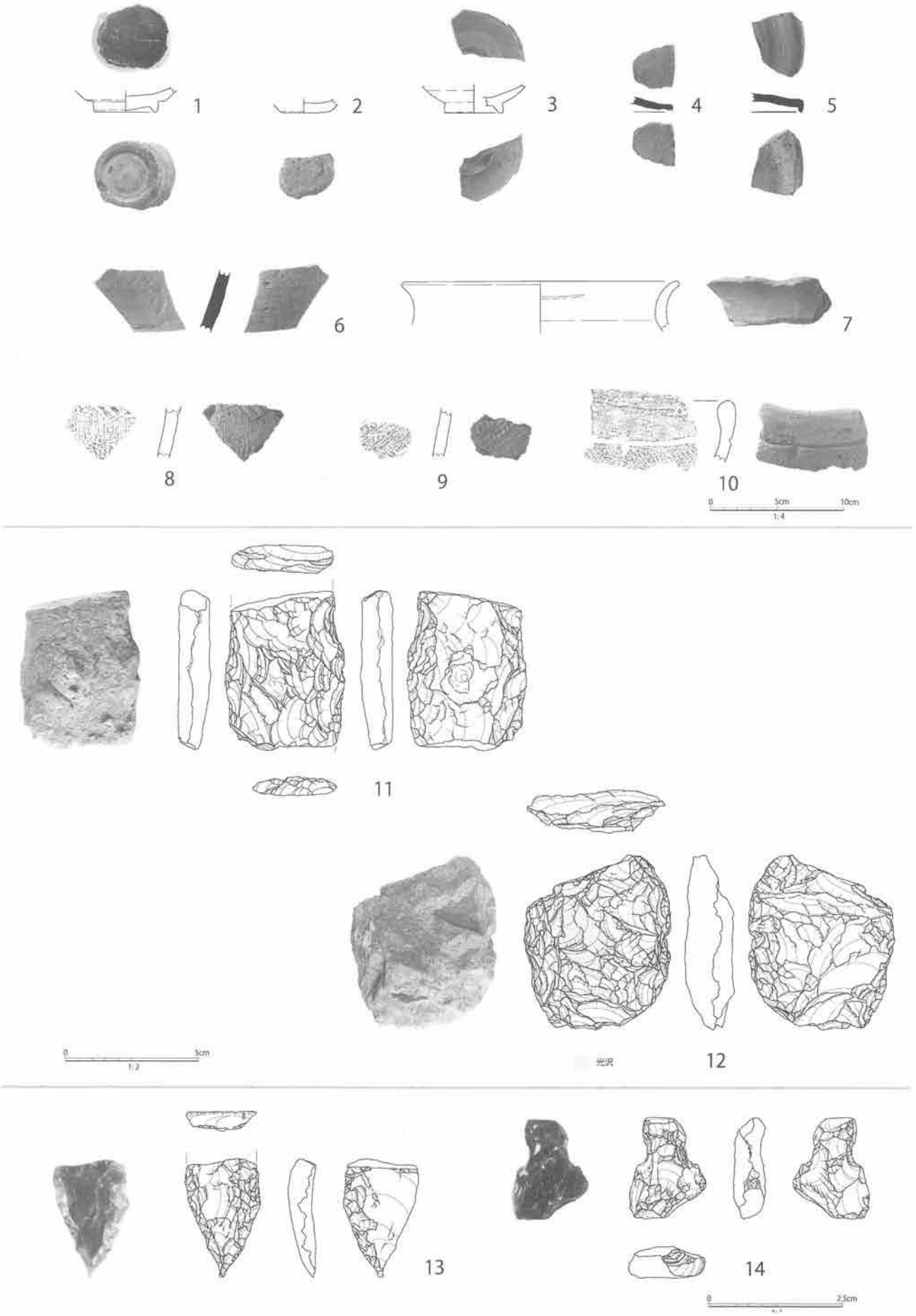
10. 縄文土器片。口縁部に無文帯が沈線で区画され、口縁上部は小波状縁を呈する。地文は、沈線下に RL 文を横に転がし、その下段は縦に転がして施文する。胎土には小石・粗砂を含む。色調はにぶい黄橙色 10YR7/4。焼成良好。加曽利EⅢ新～EⅣ式期。

11. 打製石斧。基部及び先端を欠損する。残存長 5.8cm・幅 4.5cm・重量 47.84 g。側縁に両面から調整を施す。裏面中央には、被熱によるはじけ後のものと考えられる、比較的浅い窪みを有する。ホルンフェルス製。

12. 打製石斧。約 1/2 を欠損し、刃部先端も一部欠損する。残存長 7.1cm・幅 5.8cm・重量 76.35 g。側縁に両面から細かな調整を施し、刃部を作出する。両面の一部に光沢が見られる。ホルンフェルス製。

13. 尖頭器。刃部を欠損する。長さ 2.2cm・最大幅 1.4cm・重量 1.52g。おもて面は両側縁に細かい調整を施し、裏面は片方の側縁に調整を施す。チャート製。

14. 石匙。刃部を欠損するが、縦形の製品であると推測される。残存長 1.9cm・幅 1.4cm・重量 1.44g。おもて面に細かな調整を施し、抉入部はおもて面からの剥離によって作出される。



第 15 図　遺構外出土遺物

第Ⅳ章　まとめ

今回の本村北遺跡G地点の調査では、弥生時代の住居跡1軒・奈良時代の住居跡1軒・近世から近代と推定される土坑12基・井戸跡1基・溝跡18条が検出された。調査区が斜面地に立地することもあって、遺構の残存状態が悪く、遺物も確実に遺構の時期を示すものが少なかった。そうした中で、今回の調査により得られた知見を、以下にいくつかまとめておきたいと思う。

1号住居跡は、覆土中の遺物から、奈良時代後期の住居跡と推定された。奈良・平安時代の住居跡は、本村北遺跡A地点・B地点・D地点の調査で検出されている。いずれの調査区でも、検出されているのは1～2軒で、住居跡同士は重複することなく、遺跡内に点在していたことが窺える。今回の調査では、遺跡内における当該期の居住域の東端を確認したといえる。

1号住居跡の土層堆積状況を見ると、いわゆるレンズ状の堆積をせず、覆土の大部分は第3層及び第31層で占められている。斜面上方からの崩落土で一度に埋まったとも考えられたが、床面に近い壁際から立て掛けるようにして砥石が出土したことと(写真図版1)、床面で検出された粘土堆積の状況から、1号住居跡は廃絶後埋め戻されたと推定される。カマドが崩れ(あるいは人為的に崩し)、什器の持ち出しと柱の抜き取りを行った後、埋め戻しに際して壁際に砥石を置いた。本村北遺跡A地点・B地点では、縄文時代前期・中期の遺構・包含層が発見されており、こうした縄文土器を含む周囲の土を充填したために、1号住居跡の覆土中や床面直上から縄文土器片が出土する今回のような検出状況になったものと思われる。

2号住居跡については、覆土中より出土した遺物や住居の形態から、弥生時代後期に属すると推定される。本村北遺跡ではこれまで弥生時代の遺構は確認されていなかったが、今回初めて発見されたことにより、南に位置する本村南遺跡(三芳町)、東に位置する南通遺跡・北通遺跡(ともに富士見市)と関連する弥生時代の集落の存在が明らかとなった。本村南遺跡では、これまでの発掘調査により、弥生時代中期～後期の住居跡20軒や弥生時代後期の方形周溝墓・V字状の大溝が検出されている。一方、南通遺跡では、弥生時代中期後半～古墳時代前期初頭の住居跡310軒と環壕が検出されている。これらの周辺遺跡の事例を考え合わせると、水稲耕作を生業としていたであろう弥生時代において、今回の2号住居跡のような単独での居住ということは考えにくい。周辺の調査を重ね、集落の広がりや本村南遺跡・南通遺跡・北通遺跡との関連を明らかにしていく必要があろう。

18条検出された溝跡の中でも、1号溝跡＋18号溝跡・2号溝跡・10号溝跡については、溝跡の走行方向から同一の性格を有するものと推定される。土層観察用のベルトからは直接的な切り合い関係を確認することはできなかったが、現場の調査中の所見では10号溝跡の覆土を2号溝跡が切ると認識された。1号溝跡と2号溝跡の関係は、同時併存かまたは時期差を有するかは明らかにし得なかった。いずれにせよ、各々の溝跡が走行方向の影響を受ける形で存在したと考えられる。これらの溝跡の性格については、溝断面の形態は鋤で掘り上げたままのような箱薬研形を維持し、溝底や覆土中には水が常時流れた痕跡は認められなかったことから、排水を主とした目的のものではないと推測される。ここで参考となるのが、隣接する本村南遺跡でも、深さは40～60cmであるが箱状(箱薬研状)の並行する溝跡が検出されており、地境を表す「仕切溝」もしくは農作物を守るための「根切溝」として、さらには「道の区画溝」の可能性も指摘されている(註1)。今回のG地点の1号溝跡＋18号溝跡・2号溝跡・10号溝跡についても同様の可能性を示唆しておき、今後の隣接地や周辺の調査結果をふまえながら、遺構の性格を判断していきたい。

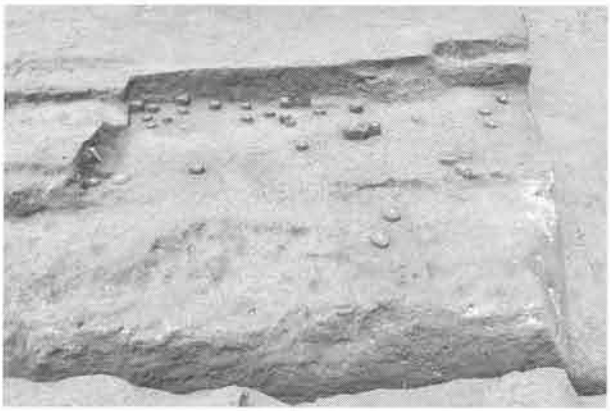
(註1)　松本富雄・柳井章宏・矢島洋一『町内遺跡群発掘調査報告書』1988　三芳町教育委員会
　　柳井章宏『町内遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』1989　三芳町教育委員会

調査前風景（南から）

掘削状況（南西から）

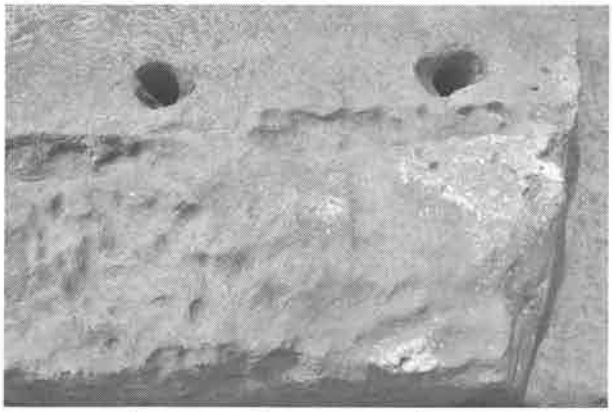
1 号住居跡検出状況（北西から）

1 号住居跡調査風景（南から）

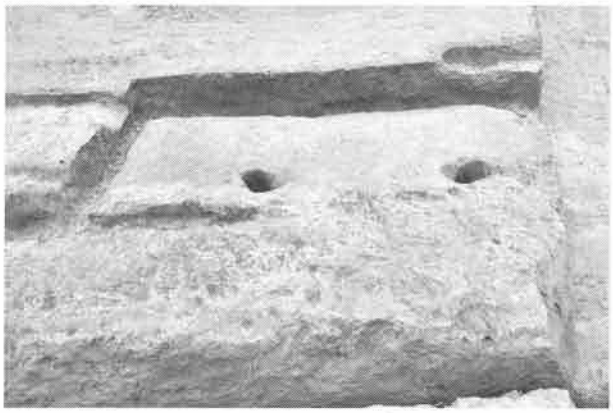


1 号住居跡遺物出土状況（南東から）

砥石出土状況（南東から）



炉跡・粘土堆積検出状況（南東から）

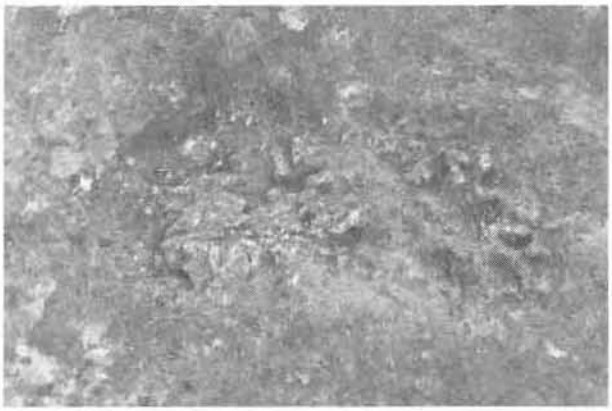


1 号住居跡完堀状況（南東から）

2 号住居跡検出状況（北から）

2 号住居跡調査状況（北から）

2 号住居跡炉跡セクション（西から）



炉跡完堀状況（左：1 号炉跡、右：2 号炉跡）

2 号住居跡貼床検出状況（南東から）

2 号住居跡完堀状況（西から）

1 号土坑調査風景（北西から）

1 号土坑完堀状況（北西から）

2 号土坑完堀状況（東から）

3 号土坑完堀状況（東から）

4 号土坑完堀状況（南東から）

5 号土坑完堀状況（東から）

6 号土坑完堀状況（東から）

7 号土坑完堀状況（南から）

1 号井戸跡礫出土状況（東から）

1 号井戸跡完堀状況（東から）

G地点完堀状況（北東から）

溝跡完堀状況（南西から）

2 号溝跡・10 号溝跡調査風景（南西から）

9 号溝跡完堀状況

10 号溝跡断面形状

調査区近影（北東から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	ほんむらきたいせきじーちてんはっくつちょうさほうこくしょ		
書　名	本村北遺跡 G 地点発掘調査報告書	巻　次	
副書名			
巻　名			
シリーズ名	三芳町埋蔵文化財報告		
シリーズ番号	38		
編著者名	越前谷　理		
編集機関	三芳町教育委員会		
所在地	〒 354-8555　埼玉県入間郡三芳町大字藤久保 1100 番地 1		
発行年月日	2012 年(平成 24 年) 3 月 31 日		

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北　緯 東　経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号				
ほんむらきたいせきじーちてん 本村北遺跡 G 地点	ちくまざわ 竹間沢 793-1,-3,-4,823-1,-2,-3	113247	32-003	35° 49′ 35″ 139° 33′ 02″	20110516 20110630	1,300	資材置場造成

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本村北遺跡 G 地点	集落跡	弥生時代後期、奈良時代、近世・近代	弥生時代後期住居跡 1、奈良時代住居跡 1、時期不明溝跡18、時期不明土坑12、時期不明井戸跡 1	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、砥石	これまで未検出であった弥生時代後期の住居跡を発見。また、奈良時代の居住域の東端を確認。

三芳町埋蔵文化財報告 38

本村北遺跡 G 地点

発掘調査報告書

発 行 日　平成 24 年 3 月 31 日

編集機関　三芳町教育委員会

入間郡三芳町大字藤久保 1100-1

Tel.049-258-0019

発　　行　三芳町教育委員会

印　　刷　深志印刷株式会社